



明

柔

84,L

明治大学柔道部明柔会会報

明治大学校歌

(一) 白雲なびく駿河台 眉秀てたる若人が

撞くや時代の暁の鐘 文化の潮みちびきて

遂げし維新の榮になふ 明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

(二) 権利自由の搖籃の 歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり 獨立自治の旗翳し

高き理想の道を行く 我等が健児の意氣をば知るや

我等が健児の意氣をば知るや

(三) 靈峰不二を仰さつ、 刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく 正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

柔道部 部歌

きいてみたかよ 明大の柔道部

よいよい あらよい こらよい

よいやの よいよい

轟く 選手のその名を

知るや よいよい

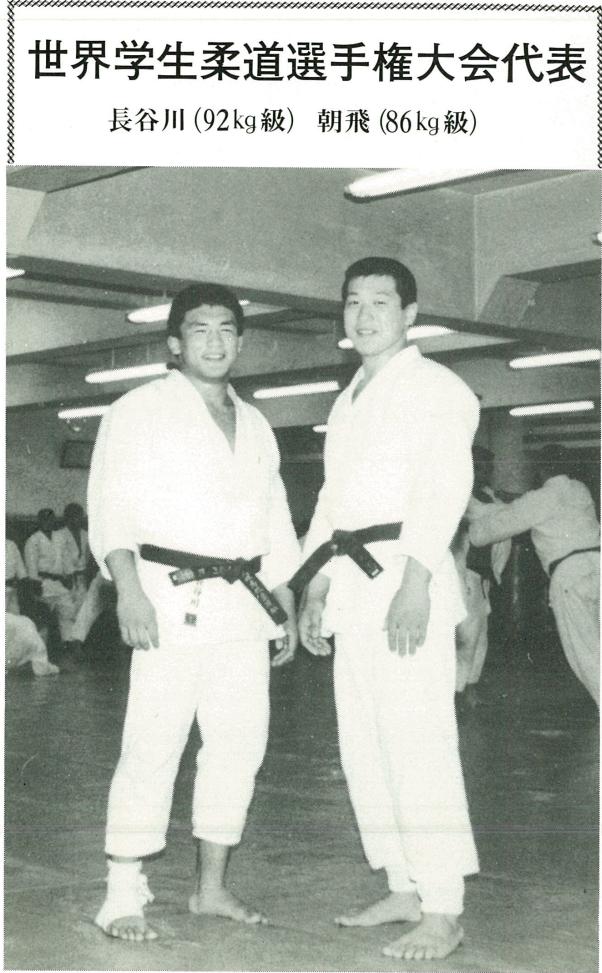
あらよい こらよい

よいやの よいよい

あらよい こらよい



長谷川 (92kg級) 朝飛 (86kg級)



長谷川

朝 飛

# 二年連続準決勝で泣く(全日本学生優勝大会)

朝飛の三角絞さまる。

齊藤萌ヶサ固にとる

天理大に敗れ肩を落す明大勢



## 明柔 (明治大学柔道部明柔会会報) 目次

卷頭言	部長
罗斯・オリンピックに参加して	百瀬恵夫
大会記録	上村春樹
観戦記	6
大会を見て	6
文	6
翔べ若者よ	6
朝の来ない夜はない	6
東京大学柔道連会長就任にあたり	6
特別寄稿 スポーツはこれでいいのか	6
OBだより	6
下町明柔会	6
播州路での明柔会	6
平島征也君を囲んで	6
第28回明柔会ゴルフコンペ参戦記	6
海外から	6
ロスアンゼルスから	6
元氣でやっています	6
松岡義隆(昭三〇年度)	24
国安均(昭四五年度)	24
藤井洋二(昭三二年度)	24
村上京杉(昭四四年度)	24
37 36 35 34	31
	30
	29
	28
	27
	26
	25
	24
	21
	19
	17
	14
	13
	8

我未成の時代 小林久繁 41  
近況管見 滝本満治 44

柔道会と私

柔道の想い出

柔道部とともに

柔道と傷と人生

有限の生命

道場往来

明大の技 (5)

思い出の一枚

明柔人国記

出身校シリーズ

わが母校

東北高校

学苑会柔道部とともに三十年

文 集――わが青春の駿河台四

汗こそ最良の教師

久松回憶記

心に残る人

得意技の解説 佐藤幸一の大内刈

住所変更

編集後記

91	88	85	81	76	72	69	66	62	60	58	55	54	51	50	48	47	46	45	41	
小林久繁	滝本満治	水野留次郎	橋本一郎	柳田明雄	坂本行弘	篠原一雄	47	46	45	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	
我未成の時代 小林久繁 41 近況管見 滝本満治 44	柔道会と私	柔道の想い出	柔道部とともに	柔道と傷と人生	有限の生命	道場往来	明大の技 (5)	思い出の一枚	明柔人国記	出身校シリーズ	わが母校	東北高校	学苑会柔道部とともに三十年	文 集――わが青春の駿河台四	汗こそ最良の教師	久松回憶記	心に残る人	得意技の解説 佐藤幸一の大内刈	住所変更	編集後記
我未成の時代 小林久繁 41 近況管見 滝本満治 44	柔道会と私	柔道の想い出	柔道部とともに	柔道と傷と人生	有限の生命	道場往来	明大の技 (5)	思い出の一枚	明柔人国記	出身校シリーズ	わが母校	東北高校	学苑会柔道部とともに三十年	文 集――わが青春の駿河台四	汗こそ最良の教師	久松回憶記	心に残る人	得意技の解説 佐藤幸一の大内刈	住所変更	編集後記

## 卷頭言

# 協 同 と 競 争

著者：瀬戸内会館長 百瀬 恵夫

協同と競争は、人間社会の成長にとって欠くことのできないものである。協同は人間の社会的な本能に根ざしているものであるが、自由競争の後に協同思想が芽生え、個人主義を経て協同主義が発展した。協同の高まりは、相互扶助の精神を豊かにして、社会生活を快適なものとするが、競争が過度になると、社会の秩序は乱れ、心を荒廃させる。

協同と競争の本質については、両者を表裏一体の関係でとらえる方がわかりやすい。協同も競争も、共に「同一目的」という要素が存在している。協同の形態には、共同して事業を行なうような「合力」と、協業などによって、それぞれの職分を明らかにして「分業」したり、たがいに成員が助け合って事業を協同する「助力」などがある。競争は、自己の求めるものと、他者の求めるものが同一で、自己の目的達成のために、他者の目的達成を抑制しなければならない場合に起きてくる。スポーツの場合においても、協同と競争の原理がつらぬかれている、それは、個人競技、団体競技を問わない。特にスポーツは、結果を明確にするにおいて最もきびしいものであるといってよい。その裏返しとして、オリンピックは、「参加することに意義がある」という言葉を生んだのであろうか。参加精神を前面に出したのは、協同の原理こそアマチュアスポーツの精神であり、技を競う（競争）ことによる結果は二の次という意義に理解されよう。しかし、現実には、メダルの重みが、すべてを決定的なものとしている。これが、特に協同主義を主唱する社会（共産）主義国に強い傾向がみられるというのも、私は不思議に思はれてならない。

ここで大切なことは、心技共に強くなるためには、自己研鑽を積むことはもとより、協同して、同一目的（勝利者）達成に努力することが重要であるということである。競争のない社会に、進歩はあり得ない。競争が激しければ激しいほど、協同は強化される。スポーツを通じて培われた友情が、何にも増して尊いのは、協同と競争の中で磨き上げられた本物の「光」であるから美しいのである。眞のスポーツマンシップとは、このことをいのではないかと心ひそかに思っている。

# ロス・オリンピックに参加して

上 村 春 樹



勢からして益々顕著になってくるものと思われる。そのような状況の中で、外国選手全般に言えることは、良し悪しは別として審判ルールを考えた試合運び、駆け引き等が研究、工夫されてきていることである。技術的には、柔道本来の体捌きや崩し、作り、掛けなどの基本動作を無視し、体力にまかせてただ多くの技を掛けるという試合運びが主体となり、ポイントをとり勝つことのみに重点を置く傾向が益々強くなっている。この様な状況下で日本選手は得てして外国人に比べて劣っている体力面の向上のみにエネルギーを頼り、技術面の鍛錬をやむを得たる傾向にある。この機会に我々コチラ陣は一度日本人があつた強化策を早急に考えいかなければならぬものと痛感する。体力的に劣る日本人は、筋力、瞬発力の向上を踏まえた基礎体力の強化は勿論であるが、体捌き、崩し、作り、掛け等の柔道の原理を理解し、技術練習に重点を置いた、基本に忠実な柔道をしていかねばならない。その上で外国柔道をよく理解し、自分の柔道にあった外国選手対策を考えいかなければならぬ者は勝てない、ということである。特にオリンピックのような大試合では技術をしぐほど強靭な精神力をを持つ選手でなければ優勝することは難しい。例えばケガなどのアクシデントが起きた時にそれが顕著に現われる。今大会でも、試合中のケガで自分本来の力を発揮できない選手が何人かいたのが、ふくらはぎを痛め足を引きづりながらも優勝した山下の

第一番目は、大きな試合では精神的なたくましさに欠ける者はない、ということである。特にオリンピックのような大試合では技術をしぐほど強靭な精神力をを持つ選手でなければ優勝することは難しい。例えばケガなどのアクシデントが起きた時にそれが顕著に現われる。今大会でも、試合中のケガで自分本来の力を発揮できない選手が何人かいたのだ

したなかで、柔道競技は八月四日～十一までの八日間、ロサンゼルス市にあるカールステイト大学ロス分校で行なわれた。今回の大会は、強豪ソ連・東独を含む東欧圏や、キューバの不参加という変則大会となり、又、今回より他の階級選手は無差別級へのエントリーができないといったことが西独など西欧諸国が活躍が大会を盛り上げてくれた。当初我々日本チームは、ソ連などの不参加により、八階級中五個の金メダルを目標に大会へ臨んだ。しかし、有望視されていた71kg以下の西中のケガ、68kg以下の野瀬の審判コールを感じ、ソ連による負けなどのアシドンなどにより、金メダルは60kg以下の細川、65kg以下の松岡、95kg超の齊藤、無差別の山下の四階級だけに留まり、四年に一回開催されるオリンピックという大イベントで勝つことの難しさを改めて思い知られた。

今大会を振り返って感じたこと

強さは技術だけのものではない。しかし、原点は同じながら精神力の強化は技術のそれと異質の面があり、一朝一夕にして成るものではなく、長期間の厳しい練習の裏付けと本人の自覚なくして培われるものではない。いかに努力したか、極限までの練習をどれだけ多く経験したかによってこそ生まれてくるものである。ロスで優勝した山下、齊藤が何故強いか、それは持つて生れた体力的素質もさることながら、質、量とともに負けない練習をやり、人一倍の研究、工夫をやりとげたという自信（精神力）によるものである。

五輪に柔道が採用されて以来、日本代表選手の主力をなしてきた明治大学柔道部であったが、今回初めて一人も選手を送り込めたかった。これは、技術、体力面にんじんより精神的たましまさの欠如が最大の原因ではないかと考る。部の指導をあつからつて、一人として、この事態を深く反省し、次回のソウル五輪へ向けて「自己の極限に挑戦」を合言葉に猛練習を重ね、かならず代表選手の座を獲得するべく、部員と一緒に努力精進を重ねて行く覚悟である。しかしこの目標は、先輩各位の御指導御支援なくして達成されるものではない。この機会に明治大学柔道部復活を目指し、一層の御鞭撻を願う次第である。

最後にオリンピックでは、ロス在住の篠原先輩に大変お世話をになりました。誌上を借りてお礼申し上げます。

ロス・オリンピック日本選手団コーチ

ロス・オリンピックは、これまでの大会と違つて、選手村、試合場などの施設は全て既存の設備を使い、運営費もほとんどが企業の広告宣伝費や賛賛金などで賄うといったところだ。しかし、有望視されたが、古豪フランス、ソウル五輪目指し進境著しい韓国をはじめ、古豪フランス、などにより、興味の薄い大会になるのではと懸念されたが、アメリカらしい商業色の強いものであった。一方、情報伝達システムなどは最新の情報発信機器を駆使して、この面では超近代的な大会となつた。又、セレモニーの演出等は、地元プロードウェイハウを取り入れ、観客を大いに楽しませてくれた大会でもあつた。そう

西独など西欧諸国は、大会を盛り上げてくれた。当初我々日本チームは、ソ連などの不参加により、八階級中五個の金メダルを目標に大会へ臨んだ。しかし、有望視されていた71kg以下の西中のケガ、68kg以下の野瀬の審判コールを感じ、ソ連による負けなどのアシドンなどにより、金メダルは60kg以下の細川、65kg以下の松岡、95kg超の齊藤、無差別の山下の四階級だけに留まり、四年に一回開催されるオリンピックという大イベントで勝つことの難しさを改めて思い知られた。

したなかで、柔道競技は八月四日～十一までの八日間、ロサンゼルス市にあるカールステイト大学ロス分校で行なわれた。

# 大会記録

第三三回 全日本学生優勝大会 九月一日、二日（於武道館）  
明大は、シード校として、二日目から出場したが、準決勝  
で天理大に敗れた。尚優勝校は東海大。

大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学
朝 古 壇 木 矢 又 日 田	長 谷 川 村 藤 賀 古 竹 園 朝 飛	新 垣	明治大学	古 矢 竹 斉 朝 木 新 垣	木 飛 園 藤 賀 古 竹 園 朝 飛	木 新 垣	明治大学	新 木 朝 竹 斎 古 竹 園 朝 飛	木 飛 園 藤 賀 古 竹 園 朝 飛	木 新 垣	明治大学
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
合 合 合 扱 内 橫 内	谷 落 払 背 背 負 い 分 け 引 き 分 け 引 き 分 け	内 四 方 股	天 理 大 学	大 内 戮 一本 背 負 い 分 け さ 固 ま し け さ 固 ま し け さ 固 ま し	内 四 方 股	天 理 大 学	大 内 戮 一本 背 負 い 分 け さ 固 ま し け さ 固 ま し け さ 固 ま し	内 四 方 股	天 理 大 学	大 内 戮 一本 背 負 い 分 け さ 固 ま し け さ 固 ま し け さ 固 ま し	内 四 方 股
せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ	落 し し し し し し し し し し し し し	腰 股	天 理 大 学	引 き 分 け	引 き 分 け	注 意	注 意	引 き 分 け	引 き 分 け	注 意	注 意
技 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技	腰 股	天 理 大 学	高 木 稔 商 科 学	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
水 兵 田 佐 川 石 佐 々 木	西 煙 木 正 金 鴨 野 羽 武 藤	天 理 大 学	大 高 木 稔 商 科 学	山 田 嶋 元 本 高 佐 橋 三 宅	岡 田 宮 田 畑 田 吉 中 浜 谷	堀 田 吉 田 沢 田 沢 田	近 縮 大 学	出 口 田 地 田 田 田 田 田 田	出 口 田 地 田 田 田 田 田 田	出 口 田 地 田 田 田 田 田 田	近 縮 大 学
谷 藤 中 藤 迂 塚 佐 々 木	火 煙 木 丸 金 川 鴨 野 羽 武 藤	天 理 大 学	大 高 木 稔 商 科 学	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田



明大——近大

大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学
又 檀 木 斎 朝 日 古 田	齊 木 朝 又 古 檀 上	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将
吉 上 村 藤 飛 田	藤 村 飛 吉 賀	明治大学	斎 木 朝 又 古 檀 上	齊 木 朝 又 古 檀 上	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅
引 き 分 け 小 扱 い 分 け 背 負 投 袖 鈴 込 内 股 透	引 き 分 け 小 扱 い 分 け 背 負 投 袖 鈴 込 内 股 透	明治大学	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
外 腰 い 分 け 背 負 投 袖 鈴 込 内 股 透	外 腰 い 分 け 背 負 投 袖 鈴 込 内 股 透	明治大学	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
石 渋 村 西 飯 神 持 田	渋 松 宮 大 小 河 猪 俣	東洋大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将
岡 谷 上 村 西 田	形 松 宮 大 小 河 猪 俣	東洋大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将
日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学	日本大学

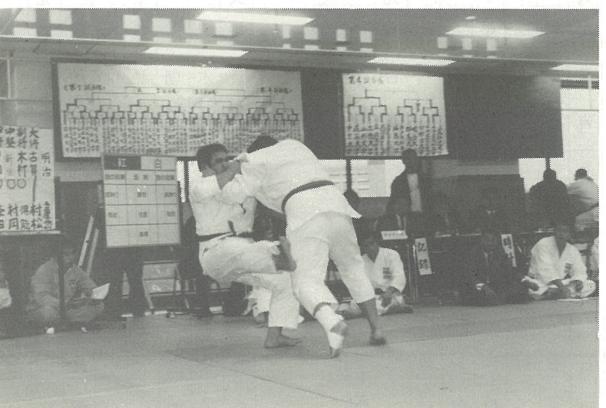
大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学	大将	中堅	先鋒	明治大学
朝 古 壇 木 矢 又 日 田	長 谷 川 村 藤 賀 古 竹 園 朝 飛	新 垣	明治大学	古 矢 竹 斎 朝 木 新 垣	木 飛 園 藤 賀 古 竹 園 朝 飛	木 新 垣	明治大学	新 木 朝 竹 斎 古 竹 園 朝 飛	木 飛 園 藤 賀 古 竹 園 朝 飛	木 新 垣	明治大学
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
合 合 合 扱 内 橫 内	谷 落 扞 背 背 負 い 分 け 引 き 分 け 引 き 分 け	内 四 方 股	天 理 大 学	大 内 戮 一本 背 負 い 分 け さ 固 ま し け さ 固 ま し け さ 固 ま し	内 四 方 股	天 理 大 学	大 内 戮 一本 背 負 い 分 け さ 固 ま し け さ 固 ま し け さ 固 ま し	内 四 方 股	天 理 大 学	大 内 戮 一本 背 負 い 分 け さ 固 ま し け さ 固 ま し け さ 固 ま し	内 四 方 股
せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ せ	落 し し し し し し し し し し し し し	腰 股	天 理 大 学	引 き 分 け	引 き 分 け	注 意	注 意	引 き 分 け	引 き 分 け	注 意	注 意
技 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技 技	腰 股	天 理 大 学	高 木 稔 商 科 学	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
水 兵 田 佐 川 石 佐 々 木	西 煙 木 正 金 鴨 野 羽 武 藤	天 理 大 学	大 高 木 稔 商 科 学	山 田 嶋 元 本 高 佐 橋 三 宅	岡 田 宮 田 畑 田 吉 中 浜 谷	堀 田 吉 田 沢 田 沢 田	近 縮 大 学	出 口 田 地 田 田 田 田 田 田	出 口 田 地 田 田 田 田 田 田	出 口 田 地 田 田 田 田 田 田	近 縮 大 学
谷 藤 中 藤 迂 塚 佐 々 木	火 煙 木 丸 金 川 鴨 野 羽 武 藤	天 理 大 学	大 高 木 稔 商 科 学	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田

第三三回 東京学生優勝大会 第四回 準決勝

第二回全日本大学柔道優勝大会は神戸ユニバーシアード強化選手候補選考会を兼ねて行われた。（五七校参加）（体重別五人制）天理大学優勝

明治	大	大	学	4								
明治	大	松	新中	古木	新中	松	大	古木	新中	松	大	學
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

明	大	古木	新中	松	大	古木	新中	松	大	古木	新中	松	大	學
明	松	賀村	垣口	田	學	賀村	垣口	田	學	賀村	垣口	田	學	
腕	合	内	大	内	合	腕	合	内	大	内	合	腕	合	
四	方	固	四	方	固	四	方	固	四	方	固	四	方	
腕	合	内	大	内	合	腕	合	内	大	内	合	腕	合	
松	井	幸	田	西	田	柴	向	名古屋	馬	群	大	井	商科大	
井	田	田	田	田	田	村	村	商科大	馬	群	馬	田	大	
向	向	向	向	向	向	多	村	得	幸	群	馬	田	神戸商科大	
名古屋	商科大	大阪商業大	大阪商業大	多	藤	内	石	石	井	幸	群	馬	大	
商科大	大	浜	三	浜	谷	内	石	石	田	田	幸	田	神戸商科大	
大阪商業大	阪	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	西	大阪商業大	
多	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	多	



全日本大学大会＜講道館＞大内刈で攻める古賀（名古屋商大戦）



第三回全日本学生柔道優勝大会が九月一、二日の両日通り日本武道館で行なわれ我明治大学柔道部は昨年同様準決勝で敗れ三位に甘りました。この大会に向けて頂いた諸先輩の御指導と物心両面に渡る応援に対し指導陣

## 昭和五九年度学生優勝大会

を終えて

監督・篠巻政利

第一回全日本大学柔道優勝大会を兼ねて行なわれた。十一月七、八日、カナダのドルンムント市で行なわれた。カナダ柔道大会九五以下級に出場した諏訪剛（五二年度京葉ガス）はブレイブ（カナダ）を決勝で破り優勝した。尚大会終了後、カナダ柔道連盟の要請で同国内外各地の巡回指導を行ない、二十日帰国。

明治大学準決勝

古木	新中	松	大	學
賀村	垣口	田	學	大
引き分け	引き分け	有効	引き分け	引き分け
合せ技	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○
引き分け	引き分け	引き分け	引き分け	引き分け
棍	天理	石川	西鶴	天理
原	大學	川畠	原田	大學

を代表して心から御礼申し上げます。振り返って見ますと、本年は

一、三月上旬の新日鉄広畑チームとの合同合宿。

二、五月上旬の強化週間（午前中警視庁・午後明大道場）

三、六月上旬（五月上旬と同じ）。

四、七月末から八月上旬の二週間（八幡山に選手候補全員集合しての強化合宿）。と昨年以上に稽古及び技、精神面の強化を図ったトレーニングと稽古を行なってまいりました。

にもかかわらず、大会においては又、天理大学に敗れてしましました。しかし一応、選手全員は自分の力を充分に發揮し、立派に戦ったものと思っております。正月の全日本強化合宿への、選手候補の参加を皮切りに各種強化計画を消化し、優勝の目標に向って全力をかたむけてまいりましたが、最後の強化合宿で、選手候補が多数負傷したことは最大の痛手でありました。ケガについては、選手も我々指導者も十分環境整理に配慮したつもりでしたが、残念なりません。この一連のケガの内容を検討した結果は不可抗力をいたしましたが、強化合宿での防衛術は今後の大きな課題としてあります。ケガについても、研究しなくてはならないものと痛感しました。本年度は、まだいくつかの試合は残っているものの、日程の大半部分を終え、成績としては全日体重別選手権大会65kg級の今堀選手（四年生）三位、71kg級の青野選手（四年生）の準優勝、団体優勝大会の三位が主な成績でした。明大柔道部と

しては、満足のできる成績ではありませんでした。しかし、

稽古をふりかえって見ますと、合宿及び毎朝のトレーニング、稽古時間も全員が全員参加できるよう、曜日毎に時間を変更し、午後のみ東洋大柔道部で他大学と合同稽古となり、内容には未だ未だ問題はあるが、練習のための練習ではないことを心にききましたが、カリキュラムを確実にこなしたことは、今後を考えるうえで一つの進歩であると思いま

す。

又今春は、新学期開始にあたって、優勝の祈願と精神修養のため、高尾山に参詣しました。これは代田氏(四四年度卒)のお父さんの御厚意によるもので、三月一七一八日、「泊二日で山に登り、修驗僧の大朝のおつとめを見学しました。丁度この日東京は何年來の大雪でしたが、我々もこの雪解け水の滝に打たれました。この経験は聽講された精神訓話とともに頃感することの出来ないいはばらしい緊張感を我々に与えてくれました。このように各所で、OB以外の人達からも激励されるのが明大柔道部は、何んとしても復活して声援に答えることはなりません。

八四年を送るにあたり、来年こそ本年の反省を基に、全員一丸となり、優勝を目指し努力、精進する所存です。諸先生はじめ諸先輩には、今年同様の御指導をお願いいたします。

四三年度 新日鉄

# 観戦記

## 全日本学生柔道優勝大会



大会を見て

の皆さんも、例年になく応援に力が入ったことだと思います。この結果につきましては、既に皆様ご承知のとおり準決勝で天理大に敗れ、残念ながら今年も東海、天理の壁を突破できることができず昨年同様3位に甘んじたわけです。しかし、長い間低迷を続けてきた明大柔道部にとって、2年連続ベスト4に進出した実績は、今後明大柔道部が飛躍するうえで必要不可欠なステップであり、現状では立派な成績として評価されるべきものと思います。

ご多忙にもかかわらず母校柔道部のために寝食をなげうつて、ここまで指導された諸先生達のご努力に対し、また学生諸君も、これによく応えて精進されたことに対し心から敬意を表するものであります。

この想いでは東海大柔道部が昨年、実に8年ぶりにベスト4に進出し3位を勝ち抜いた12校に、シード4校を加えた16校によって決勝トーナメントが行われた。

明大柔道部は昨年、本年度はシード校として東海大柔道部を確保したので、本年度はシード校として東海大柔道部がトーナメントから脱落する。昨年準優勝の天理大を始め同3位の日大、明大がそれを阻止することができるかどうかが、一番の見どころであった。特に本年度の明大は、朝飛、古賀、木村など的好選手が揃っているため、優勝候補の東海大、天理大などと差がないということで、当日応援に駆けつけた大勢のOB

東京都中央卸売市場大森市場  
海老、塩干加工品問屋

# 海老 晃

(31年卒)

代表取締役社長 滝本満治

## FASHION SHORTS PILOT HOUSE

株式会社アリス

代表取締役 佐々木充行  
(42年卒)

本社 〒779-36 德島県美馬郡駒町大字駒町 802番地  
TEL (0883)5-2-1138番(代)  
大阪支店 〒551 大阪市東区安土町 1丁目 22-1  
営業所 プライムビル3F-302 4F-402  
TEL (06)264-6285番(直通)(代)

本社 東京都大田区大森本町2丁目2番10号  
電話 (764) 2876

王者に復活する道はないということでした。私も全くその通りだと思います。

ちなみに、今大会に登録されていた9人の選手の身長、体重の加重平均を比較してみると、明大は身長平均が八〇、一四・四kg、体重平均一〇〇、五六kgであるのに対し、東海大は七八、五六cm、一〇二kg。天理人は一七八、五六cm、九八、八九kgであり、明大選手の体格がバランス的に一番優れていたのであります。にもかかわらず、試合ではこの恵まれた素質を活かしきれず、特にペスト4クラスとの試合では十分な組手にならず、組み負けているケースが数多く見受けられました。このことは、普段の練習において想定される相手の研究と、それに勝つための目的意識を持った効果的な練習を怠っているからに他ならないと思ふのであります。徹底的に鍛えあげられた体力と、自信に裏打ちされた正しい姿勢からの豪快な技が明治の柔道であり、これらの基礎がしっかりとできていれば、組み負けることはもとより負けることもないのです。このことは、書いたり、言葉で言うことは易しいことではあります、実行することは大変なことです。

しかし、この困難を克服する外道はないのです。

幸い、明大柔道部には百瀬部長という最高の理解者がおられ、部員に対し「文武両道の精神は決して忘れてはならないが、ただ何となく学生生活を過す人間よりも、柔道部の一員として4年間をやり遂げた学生の方がはるかに両道に通ずる人間形成ができる」と説き、ひとつの道を極めた者は、他の道にも通じる人間であり、ひと筋の道を極めることができ

ます。しかし、この困難を克服することは大変なことです。

明大への期待と、明大柔道部の伝統を慮って、「何が何でも勝ち抜かねばならぬ」という義務感がどの様に作用するか、の不安でした。そのような懸念を胸中に交錯させながら、試合場に足を運んだ次第です。

そして、近畿大学、天理大学戦と、正に手に汗握る激戦を目前にし、久し振りに血湧き肉躍る青春時代に返ったような心地でした。その結果については、残念ながら、皆様既に新聞紙上にてご承知のとおり、準決勝で敗退いたしました。

しかし私はその夜、わが明大柔道部も、昭和四十八年に監督に就任された神田先輩、そして関、篠巻君に至る、たゆまぬ指導・努力が実り、十一年間に亘る暗闇のトンネルから灯が見えてきたような感がして、これは決して私だけの感想ではないと確信し、自宅において独り静かに乾杯させていただきました。そして、盃を重ねにつれて、選手諸君一人一人の試合振りが思い出され、私が昭和三十三年に入部し、三十六年には最上級生選手として田中主将を中心としてこの大会に臨み、前々年、前年と二連敗のあと優勝をなし遂げその後の四連覇の足掛かりを築いた当時の想い出が浮かんでまいりました。

さて、名監督・助監督がおられる中で、いまさら技術論を述べる意図は毛頭ありませんが、本誌上を借りて、私の所感を一言述べさせていただき、それが明日の飛躍につながる何かの示としてお役に立ってくれればと願いつつ、あえて筆を執らせていただきました。

部員としての「道」であると教えておられるのであります。この教えをしつかりと頭の中に入れて4年間の大学生活を過したことなれば、必ずや社会に出てからも有為な人間として歓迎されるはずあります。また、姿先生を始め、我国柔道界を代表する指導者に恵まれた明大柔道部は意欲さえあれば最高の柔道技術を習得することができます。こんなに素晴らしい環境に恵まれた明大柔道部の選手諸君が、東海、天理に勝てないはずはありません。勝つためにはどうすればよいか、今すぐにも、それぞれが目標を設定して実行に移していくべきだ。そして来年の大会では、学生柔道界の頂点に立っていただきたい。このことを全国の明柔会員は強く願っております。

△三六六年度▽日本中央競馬会

## 翔べ 若者よ!!

高田 誠之助



過日行われた第三回全日本学生柔道優勝大会を観戦した。私は私にとって、大いなる期待で、実は私にとって、大いなる期待と共に一抹の不安がありました。それは、過去の豊かな戦績に培われ、人格においても素晴らしい監督、助監督のもとで、近来まれに見る資質に恵まれた選手の練

選手中の一、二人は別として、全般的に言えることは、試合遊びが相手のベースに巻き込まれている、ということです。私が現役選手のころ、「何處の誰それは練習横綱だ」という声をよく耳にしましたが、いざ試合に臨み、日頃の実力を発揮できず、おくれを取る駄甲斐無さをよく表わしている言葉だと思います。

神永先輩からご指導を受けていた頃に、決って言われたことの中に「人それぞれ顔・形が違うように、体格も違うのだから、私が今から指導・解説する技はあくまでも参考として、自分の条件に合った技を自から編み出して下さい」という教えを今でも鮮明に覚えていますが、正に言い得て妙だと、鎌銘鑑などのがあります。すなわち、それが体格の大小にかかわらず、素晴らしい存在する人間を持つことです。その力を発揮するためには、「自分には無限力があるのだ」と強い信念を持って、自分の限界に挑戦することです。そのためにはまず、自分の身体の特徴を知ることです。私の初めに攻め技において重大な岐路にさしかかりました。それは、大學入学直前に右肘を痛め、高校時代に培ったこの技を必ず成就させて見せるぞ」という峻厳な自覚をもつ

て日夜邁進いたしました。さらに、相手の身体の大小にかかわらず、試合運びにおいて常に先手を取って行くにはどうしたらいいか、組み勝つためには手首・腕力の強化が必要と借り、鉄アーチ用いての鍛錬を欠かさず、又一方「基本に返つての打ち込みこそ不可欠」で自分自身に言い聞かせ、くる日もくる日も休むことなき練習にはげみました。そしてやっと三年生の後半に、肘が返った左引き手は相手を必ず倒せる、という強烈な自信が湧いて参りました。当時を顧みますと、確かに辛い苦しいこともありましたが、自分を伸ばし、活路を拓くために、自分から進んで困難にぶつかり取り組んだのですから、これに堪え克つことに喜びを感じ、結構楽しんで練習したことを懐かしく思い出しております。

最後に、社会人となつて既に二十二年となります。

忙中関に見えた、かの武田鉄矢が歌う「母に捧げるバード」は私の好きな歌の一つです。特にその一節の次のくだりが大好きです。

「鐵矢、わたしが一つだけいうところがなあ。

人様の世の中に出たら、働け、働け、働け鉄矢。

働くて、働くて、働き抜いて

休みたいとか、遊びたいとか、そんなこと

いいべんでも思つてみる。

そんときや、そんときや、死ぬ。

それが人間ぞ、それが男ぞ。

おまえも、花の都に出ていくかぎりは、

誰にも負けたらまらん。

かがやく日本の星となつて帰つてこいよ。  
この歌を口さずまどき、現在私の故郷久留米市で、八十一歳にして今なお元気な母の面影が、オーバーラップして私の心を励ましててくれるのです。  
どうか学生の皆さん! 一度と来ない青春です。目標は高く、しかし実際に歩むときは、脚下照顧し、悔いのない学生生活を送つて下さい。

輝ける日本の星となるために!

△三六年度▽(株)誠和 代表取締役



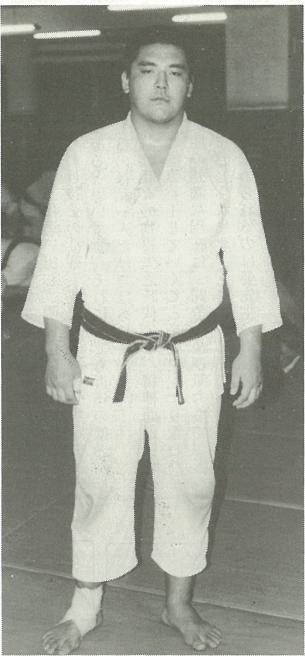
本社 新宿区百人町1-22-26  
TEL (363) 6351 代表  
三沢市栄町1-31-142  
TEL 01765(3)6678  
札幌出張所 北海道豊平区美園四条8丁目(三光ビル)  
TEL 011(811)1899

朝の来ない夜はない  
塩見泰之  
爽やかな秋たけなわの頃となりました。学生諸君、勉学及び柔道に精励していることと思います。我々先輩が社会人として、仕事にある時、折にふれ、目にする柔道のニュース、新聞記事に青春の若き血をたぎらせたことを昨日のことのように思い出し、明日への活力の糧としておられます。とりわけ後輩の活躍、成績に喜び憂する様は先輩諸士の常であると思ひます。それにしても近年の低迷ぶりに歎きしりするのは私一人だけではありますまい。

考えてみれば我々の物質不足時代には、精神面と曰頃の努力鍛錬で全てをカバーしていくことをを姿先生より教わりました。物質文明の飽満な現在は、闘争心及び気力までが影をひそめていますが、感じられます。「心技体」に「礼」が加わった柔道に今一番求められるのは姿先生の御言葉通りやはり「心・精神力」ではないでしょうか。

「朝の来ない夜はない」といいます。夜明け前の闇が最も暗いのです。挫折感を持つより、長い暗いトンネルの先がある「希望」という朝の光を求めて、皆頑張ろうではありませんか。若い時の汗は老年への活力に繋っています。

# 新主将・主務紹介



副主将  
竹園 浩法  
鹿児島実業高校



主務  
藤久文  
明大中野高校



主将  
治享  
国東高校



副主将  
松本智巳  
明大中野高校



主務  
渡辺英明  
明大中野高校

## 東京大学柔連会長就任にあたり



明柔会会長  
姿

節雄

学生柔道連盟の紛争と対応について

学柔連——佐藤寅三郎（東京学柔連会長）  
城戸亮（関西学柔連会長）  
拓植健司（武藏野女子大教授）  
大学柔連——中村良三（筑波大助教授）

再編成委員会委員  
老松信一（都柔連理事）  
大学柔連——中村良三（筑波大助教授）

(3) (2) 学柔連と大学柔連は一本化し全柔連に加盟すること  
全柔連のペナルティ凍結、全学柔連の提訴の取り下げ  
この調停案骨子により、学生柔道連盟は学柔連、大学柔連  
よりなる新統一学生柔道団体設立のため再編成委員会が発足  
した。

再編成委員会委員

学柔連——佐藤寅三郎（東京学柔連会長）  
城戸亮（関西学柔連会長）  
拓植健司（武藏野女子大教授）  
大学柔連——中村良三（筑波大助教授）

再編成委員会委員  
老松信一（都柔連理事）  
大学柔連——中村良三（筑波大助教授）

この再編成委員会は昭和五十九年三月二十五日以降数回に  
亘り開かれ、調停の上ほぼまとまりつたが、大学柔連  
提案の旧三役（会長、理事長、事務局長）の勇退問題で暗礁  
に乗りあげ、昭和五十九年八月八日の新連盟設立総会には大  
学柔連は出席を拒否したため、学柔連は学柔連だけで評議員  
会を強行し、松前会長、清水会長代行、佐伯副会長、拓植理  
事長等を選出したため、これを大学柔連は認めることが出来  
ぬと反発して、紛争状態は依然として続いている。

これに対し我が柔道部は当初より話し合いで解決を望んでい  
たが、学柔連執行部は話し合いで応ぜず、裁判提訴等の非常  
なる事態に発展したため、柔道部員が出来だけ迷惑を被ら  
ず国内試合は勿論、国際試合にも出場出来るよう中立的立場  
をとってきた。今年一月開催された第二回正力杯国際学生柔

連盟、日本体育協会からなる調停委員会（前参議院議長安井  
謙会長）が発足し、紛争解決のため次の通り調停案骨子を示  
して調停に入り、両者これを受け入れて調停に応じたので、  
早期に和解が成立することを私は期待していた。

(1) 全柔連の法人化へと向かうべき道筋（全柔連会長主導）

昨年一月、第二回正力杯国際柔道大会の開催をめぐり、全  
日本学生柔道連盟（以下学柔連）は全日本柔道連盟（以下全  
柔連）並びに講道館の合理的、民主的運営の体质改善を求め  
て全柔連を脱会し、未だ解决の目処がついておらず、柔道界  
が混亂を続けてることは誠に残念なことである。

全柔連は、学柔連の脱会後引き詰し合い解决を図るべく  
学柔連に話し合いを呼びかけたが、学柔連はこれに応ぜず、  
全柔連としては止むを得ず、これに対応するため全日本大学  
柔道連盟（関口恒五郎会長）を設立し、昭和五十八年十月二  
十八日全柔連の構成団体として承認の上、昭和五十九年二月一  
日、この紛争解决のため国会議員柔道  
連盟、日本体育協会からなる調停委員会（前参議院議長安井  
謙会長）が発足し、紛争解决のため次の通り調停案骨子を示  
して調停に入り、両者これを受け入れて調停に応じたので、  
早期に和解が成立することを私は期待していた。

調停案骨子

（1）全柔連の法人化へと向かうべき道筋（全柔連会長主導）

場辞退したのは、この大会に出場した者は「全柔連が主催、後援する大会、派遣する国際大会に参加させない」との全柔連の方針を慮っての措置であった。又去る十月六日講道館で挙行された第八回世界学生柔道選手権大会（今年十一月六日・九日・於フランス）日本学生予選で大学柔連に加盟して出場したのも、出来ただけ学生に迷惑をかけたため加盟していない。そのも、出場するだけ学生に迷惑をかけたため加盟していない。そのも、出場するだけ学生に迷惑をかけたため加盟していない。

これよりさき全柔連執行部より私に対し、東京大学柔連会長に就任するよう再り要請並びに推选を受けたが、私はその役に非ずと辞退し続けていた。しかし過日講道館は(全柔連会長)より講道館存亡の危機であるのは是非会長を引受けよう懇請され、講道館で育った私としては、講道館を愛する気持と、真に学生柔道を育成発展させる心情にかられ、熟考の末、東京大学柔連会長をはからずも引受けることになった。斯様な訳で私としても全柔連組織の中に入り、是は是、非は非と言つ意見を示し、真に学生柔道発展のため微力を尽し度いと思ってるので、何卒明柔会員諸兄におかれてもこの点御了承の上、尚一層の御支援御協力の程をお願する次第です。

昭和五十九年十一月七日

## 特稿 寄稿

### スポーツはこれでいいのか

文学部教授 池田猛雄

生れつき無精な質なのでスポーツもテレビ放送で済ますことが多いのだが、近頃は.borderWidth

ウン管に映るスポーツ選手たちの気質もひと頃にくらべるとだいぶ進ってきたように思われる。こんなことをいうと、先に思うかぶのが、巨人軍の問題児江川である。この選手などを見ていると、そもそも彼はスポーツマンなんだろうか、といふふしきなりうのなか、おかしないうのか疑問がわいてくる。

彼がプロ入りしてまもない頃のことだが、ピッチャーライナーをグラブで頭をかばいながら逃げたことがあった。グラブは捕球のためのものだし、逃げるひまがあったら球を捕りにいくのが野球選手の本能だと思うんだが、これは大変な選手が現われたものだと、突然しながら感じたことを記憶している。もっとも観衆は大笑いしていたようだが、この巨人軍エース投手の好、不調の波の大きさはちょっと信じられない位のものだが、毎度のことであつたので、彼のトレードマークみたいになってしまった。江川が二人いるような感じだが、

そこから手抜きだ、やればできるのにといつてくるというわけだ。しかしマウンド上の彼はそんなファンの喚きをよそに、例の首をかしげたり、腕をまわしたりする派手なセスティアのわりには平気そうな顔をしているのではなく、なんだろう。達観でもしているのだろうか。すくなくとも最善を尽くして敵に立ち向つていく競技者のひたむきな情熱意志、闘争心といったものは微塵も感じられない。例の江川問題は今日ではすっかり風化して過去のものになったようだが、あの騒ぎのさいちゅうに躍起になつて詰めよる記者團に立向つていく競技者のひたむきな情熱意志、闘争心といったものは微塵も感じられない。この男はいまヨーロッパだけではなく、そもそも彼は自分の事業であるはずのビジネスボーリーに対して集中力を失っているのだ。昔からラスボーリーマンがつまずくのは洒か女と相場がきまつっているが、いつも冷静で計算ずくのこの男はそんなアピールだけではない。この男ははるかに元気で戦い立つ。そして彼の顔をみて

いと、この男はいまヨーロッパを着て投げてはいるが、体格に考へているのだろうか。とふしきな氣持になることがある。江川問題をいつまであまびて、あまり意の悪いことを言つたのであるが、この男も打者と投手のちがいこそあれ、バッターボックスのなかで、まったく江川がいの仕草をみせる。近めを攻められる勢にさらされながら、潰れもしないでよく今とすぐ腰をひいて逃げ腰になる。ぶつけられ

### 台東区柔道会

(31年度)  
理事長 丸山彰治

### 四国商事株式会社

タオル製品販売  
代表取締役 浜本義典 (51年度)

### まぐろ専門 尾利長水産

代表取締役 杉山澄雄 (31年度)

中央区築地 5-2-1  
東京中央卸売市場  
電話 03-541-3769

日本石油株式会社  
プリヂストンタイヤ  
ヨコハマタイヤ 特約店

大成火災海上保険代理店  
松岡商事株式会社

代表取締役 松岡義隆

本社 熊本県八代市高下町西1丁目27番  
電話 0965-33-2182

れるのが怖いのである。そのくせ外めは苦手ときでいるから、はなから振るつともない。あきらめているのである。たまに手を出して最も腰がひいているからボールにバットが届かな。その姿には江川同様、なんとかしなければ、という主力打者としての責任感や闘争心のようなものはかけらも受けられない。最も彼の場合は打者として江川ほどの大器ではないのに人気だけが先行し、過大な期待をかけられたという氣の毒な事情もあるが、それでも打者として逸材であることに変りはない。もう少しはどうにかならないかと思うのは、別に巨人ファンの欲目だけではないと思う。だが、この男どういう訳か、こうして歩しようとはしない。彼もまた自分の職業であるはずの野球に対して明らかに集中力を欠いている。

貧しい社会で精神主義が流行るのはもの

の道理だろうが、戦前の日本の社会ではアーチュアリズムが尊ばれて、スポーツも一もちらんアマチュアがあるが、社会の中に市民権をえた。権力志向や利潤の追求があげられる人間社会のなかで、無理の行為としてのスポーツがもっているヒロイズムが社会的共

感と尊敬をえたのである。だからスポーツは物質的報酬を得なかつたが、その代りに精神的には、充分な社会的認知と保護を受けている。だからそんな土壤の中から、野球馬鹿だと道場の鬼とかいわれるようなひたむきなスポーツマンを輩出だといふことなのだろう。戦後日本の社会はたしかに豊かなものだった。物質的に繁榮するばかりでなく、国際的な情報化時代をむかえて日本の社会はますます高度な機能化社会へと組織されてきた。しかし労働や有効性という生産労働的精神に支配されるこの社会では、非日常的な遊びの要素などは無駄以外のものでない。豊かさによって生まれたというのに心を失ってしまった幸運な商業主義が横行するのもふしきれない。スポーツはいまこそ原点に還つてゐることのよな時代にスポーツする意味を問い合わせる。人はハンのみで生くるのならずといふが、無氣力なプロ選手たちの姿もまたこの欠落と空洞化を物語っているようだ。

(独文学者 福岡県出身)



姿 師範

東京大学柔道連盟会長に就任

姿師範

会の結果をふまえて、全柔連より懇請されて

いた東京柔道連盟会長就任要請を受けた。尚、

篠巻監督も、同連盟理事長に就任。(経緯は十九ページに別掲)

幹 事 会

定例幹事会 九月一日(水)、六時、於道場

一、支部強化充実を図るために機構づく

りについての討議

二、五年度 納会・忘年会開催の決定

日時(二月九日水) 六時 景所

東京大飯店(新宿) 担当幹事 杉原構

三、会報(84) の内容討議

四、新人会希望者の幹事会承認(川島功

氏、三五年度 推薦者野坂良雄)

尚、この機に新人会手続を決定へ常

記念の「帶」が贈呈された。

下町明柔会新入歓迎会

セレクション

恒例になつて下町明柔会(工藤欣一会

による新人歓迎夕食会が

七月二日浅草橋のレストラン「大吉」で開かれた。参会者

來年度 入部希望の高校生一二名が集合。

二月四日道場でセレクションを行つた。

部長、師範、監督、助監督、神田、工藤、神

永、関、藤原氏等が参観。

任幹事を含む三名の推薦者を必要とし  
幹事会の承認を得て、総会で承認す  
る

五、部の現況報告 篠巻監督

出席幹事 会長他一八名

緊急幹事会 一〇月一日六時、於道場

一、学柔連紛争の経緯報告(姿師範 篠

卷監督)

二、明大柔道部の対応についての討議

(座長 神永常治幹事)

出席幹事(敬称略) 篠巻、工藤、押切

渡辺(政)、渡辺(欣)、神永、小川、宮

下、小林、金丸、渡辺(邦)、高田、大

国、関、佐々木、段上(雄)、渡辺(公)

篠巻、代田、中島、上村、小野瀬、浜

本、諫訪、段上(道)、入江、柳田、河

田中、田、藤原 二九名

・ロスオリエンピック 上村春樹、コーコーとし

・東海大、神永昭夫、国際審判員として。

・東欧六ヶ国(ハンガリー、チエコ、ルーマ

ニア、ユーゴスラビア、ブルガリア、ギリ

シア) 巡回指導、篠巻政利、外務省

協力基金の派遣。(一〇月

・カナダ国際大会出場と国内巡回指導

観訪(選手として、一月

・第八回世界学生柔道選手権大会(フランス

朝飛大(四年) 長谷川敦(二年) 二月

サンビン会 新入歓迎焼肉パーティ

春には四年生の激励会を開いた三一年会  
(サンビン会) が一月一四日、一年生部員を  
浅草の焼肉屋「富味屋」に招待した。学生一  
名、会員、丸山、五島、浅野、山崎、杉山。

焼肉一〇二人前を平げる。

海外派遣

タネイの柔道衣は国際試合、各種大会で多くの選手に愛用されています。

刺子織の「元祖」

お求めは、お近くの武道具店  
スポーツ用品店にて武道印

伝統と信用に輝く

TANEI BRAND

タネイの  
柔道衣

武道印

武道用品の総合メーカー

株式会社 タネイ

監 権 营業 所: ☎ 0323(55) 8581

同 権 营業 所: ☎ 0364(24) 5640

東京営業所: ☎ 0333(55) 8584

日暮里営業所: ☎ 0368(83) 6262

26年度卒種 井 育 三

小藤田整骨院

院長 小藤田勝彦 (40年度)

東京都板橋区弥生町38-7

電話 03-972-0055



## 下町明柔会 PART II

丸山彰治

後輩に恵まれ、今さらながら伝統ある明大柔道部の重さを痛感する次第です。柔道部の「黄金時代」の再来を期して、今後も微力ながら会員一同頑張ってまいります。最後に柔道部の発展と皆様のご健勝を祈念いたします。

下町明柔会会員名簿

会長 工藤欣一 会員 福田二朗  
副会長 渡辺政雄 小林敏邦  
会員 平田松夫 田中章雄  
丸山彰治 田中潔  
五島光 梶原渡辺  
今 杉山澄雄 須永昭夫  
会員 佐藤義明 谷垣義明  
会員 田中章雄 岸本正人  
会員 上田隆三 正田一郎  
会員 星野豊井上恭夫  
会員 小川登志雄 殿上雄二  
会員 太田渡邊  
会員 中島一郎 大森昇  
会員 中島平人 井上恭夫  
西村良之

## 播州路での明柔会

六月に姫路に転勤になり、播州姫路へ通勤いたしております。

大阪明柔会が正式に発足してまもなく、甲斐長より大阪近在住のOBでゴルフコンペをしよじやないかとの提案がありました。先日、姫路在住の高島さんのところへ挨拶旁々立寄りました時にこの話をしたところ、十月十四日の明大全国校友大会で岡山へ福田二朗さんが来るから、よい機会なので皆に連絡して見ようとのこと。其の後藤井洋一さんも校友会へ出られる旨の情報が入りました。又小生が岡山へまいりましたとき塙泰之先輩、佐藤君と一緒にやりましたときも、ゴルフとの機会が出ておりましたときも、ゴルフをくつて方々へ電話を入れましたとこ

ろ、予想以上に多くの方々から、参加申込みを得ました。

高島さんは開催が近づくと嬉しさで落着かないのか、毎日出席は丈夫かと念をおされるのはまいりました。実際、當日はせっかくの姫路を楽しんで帰つてもらおうと何かと

気をくばられ、特に奥様の手料理は皆をよろこばせました。又安い会費で素晴らしい賞品選びもしていただきました。

高島さんも同級生が三人も姫路へ来るので、一日千秋の思いで待たれた様です。待ちに待ったその日が来ました。皆楽しんでいたと見えて青山ゴルフ場へ時間より早く全員集合、ヤヤヤアの声のかけ合いで話に花が咲きました。

ゴルフの方は、「昔はよく飛んだ」と話が多く、技術はほどどに、口技ばかりが大変で、和氣あいあいのゴルフとなりました。成績は、若手の飯田君のベスグロ優勝となりました。しかし〇〇以上は誰もたかなかかったのはさすがでした。

コンペ終了後は、高島家のガーデンパーティとなり、中田健次さんが手工土産に持参下さいました。最高級の但馬肉がステーキになり、奥様の手料理に合わせて一同舌つづみ、そして



的に納入して居ります。

年間の主な行事は、忘新年会、新人歓迎会、卒業生送別会等です。昨年からは先生も会員になられ、一層楽しい集いとなりました。宴席で驚くべきことは、中年OBの酒量もさるごとながらそのことは、学生に負けず劣らずの胃袋の強さには唯々心するばかりです。

先輩、渡辺邦雄、渡辺公雄の三兄弟、段上

雄、道夫、金子。台東区は故根岸先輩

義弟小川、村木、中野、明大中野高コーチの

太田、星野兄弟、井上、丸山。足立区から、

田中章、故渡辺辰二、小野瀬。千代田区袖田

から渡辺欣嗣先輩。荒川区は相田先輩、磯、

福田、菊地等数多くのOBを輩出いたしております。

台東区(戦後下谷区)と浅草区が合併は特に柔道とは深い関係があります。

皆様もご存知の嘉納塾、講道館柔道発祥の地で、嘉納先生がはじめて道場を造られたのが、下谷・永昌寺であることは余りにも有名です。

(地下鉄銀座線、橋本町ト車スグ) 戦前は下谷・浅草には大小30近く町道場がありました。

昔から下町は柔道に親しみやすい環境にありました。しかもれません。

従つて明大OBにも下町出身者が非常に多く、墨田区からは今その華麗な技が話題となる戦後東京が生んだ名選手、渡辺政雄

近年は全くその心配もなく、会員一同自主

会に納入し、その内から明柔会に会費を支払いますが、一時は「サラ金並みの取り立て」まで悪口で云われました。しかし、これも母校柔道部を愛すればこそあります。

年数回幹事会(工藤、渡辺、丸山、五島、神水、小川、小林敏、福田、渡辺邦、田中、段上雄、代田、中島)も行っています。

各府県にも強固な明柔会支部が出来ておられます。地元東京にも例え、山の手明柔会、武蔵野明柔会等が結成されますが、中には歌謡曲のような唄とか、最初から最後まで全く同じ節なしなソング(歌詞は間違いない)等様々ですが、これを指導しながらの懇親会も格別です。会合の出席率は平均90%で、年数回幹事会(工藤、渡辺、丸山、五島、神水、小川、小林敏、福田、渡辺邦、田中、段上雄、代田、中島)も行っています。

親会も格別ですが、我々は生涯の目標で、年数回幹事会(工藤、渡辺、丸山、五島、神水、小川、小林敏、福田、渡辺邦、田中、段上雄、代田、中島)も行っています。

明柔会はもとより、後輩に対しても良き励みにもなるかと存じます。

学生生活の目的とは「生涯にわたる良き友をつくる事」と云われますが、我々は生涯の師と仰ぐ姿先生をはじめ、すばらしい先輩、



高島家でのたのしいパーティー

とかで、この日の集りに喜びをぶつけ合いました。同じ明大道場で練習に明け暮れた仲間の集いは、懐しさ以上のものがありました。

お家のこと、そして明大柔道部の将来のこと等、話がつきませんでした。

仕事も忙しい年代ばかりで、明日の仕事があり、話がつきないまま新幹線に急がねばなりませんでした。料理と酒の御馳走は腹一杯入れましたが、話の御馳走は消化不良のまま別れねばならず、それから後髪ひく思いで再会を約し、高島家の明柔会は散会となりました。

甲斐会長より、「段々年も取ってきたし、このような楽しい会は無理矢理に機会を作つて逢おうじゃないか」との発言あり、全員賛同、アッという間の一日でした。

当日出席予定で、社用の為無念の欠席者は、塙貝泰之、朝田紀明、栗原英道の三氏でした。

甲斐会長より、「段々年も取ってきたし、この肩を抱き合って喜びを表しておりました。又皆も卒業以来とか、先輩、後輩は初対面

でした。

当曰出席の年長者藤井、中田の同級生OBは、卒業以来26年振りの再会で、手を握り、肩を抱き合って喜びを表しておりました。

また、武彦、弘昌、洋二、立花敏明、大橋武彦、佐々木充行は、卒業以来から、先輩後輩は初対面でした。

#### 当日の出席者の紹介

藤井洋二さん32年度 山口県より。藤井さんは、57年度の全国校友会が山口県であります。

中田健治さん32年度 高島さんから、兵庫県におられるし、かなりすばる連絡する様にとのことで、連絡させていたいたところ、仕事りませんでした。料理と酒の御馳走は腹一杯中途で遠い姫路まで、肉のお土産付でおいでいただきました。

うまかったです!!

昔の腕力店主が、そのまま大人になった様な豪放さで、当日は大変な御機嫌でした。

但馬肉は、東京へも出しておられるそうです。

現在数億円の家を建築中で、2年先に完成するそうです。

東京からの福田二朗さん33年度 校友会は欠席しても、明柔会へは出席とご苦労さんでした。

現地で声は大きく、当日は、スコアの方は初めてのコースにしてはマママアなので飛んだときは又、一段とオクターブが上りました。パーティでも、一人だけ声がひびいて

く、姿先生によく似てきました。酒は少し弱くなつた様です。

甲斐福男さん33年度 大阪明柔会の会長として、大阪の面倒をよくみてもらっております。

今年の全日本実業団柔道大会は、大阪で開催されました。全日本実業団の理事長に、同期の神永さんがなつてるので、甲斐さんも一生懸命で、西日本実業団の若手にギキをとばし、成功裡に大会を終了させました。よく諸位にお供をしますが、最近は姿見出身らしくなつた様です。

（旭モウルディング㈱常務）

この四月娘さんが、国立の神戸大学に合格きつと甲斐さんに似たのでしょう？

名古屋よりの伊藤彰朗さん33年度 名古屋より朝の新幹線でかけてくれました。この間まで結石症で、痛かったのが直ったばかりで、来姫していただきました。最近は誰も遊んでくれないので、奥様とゴルフ三昧とか。

社会の方も順調との事。

（鬼屋製薬本舗㈱社長）

姫路住人の高島さん 消防自動車を作つておられます。

昔から比べるとやせて、やさしいおじさんになつております。（㈱大協製作所社長）

立花敏明さん34年度 卒業以来一番よく逢う同級生で、よく福山へ出かけては、新鮮な魚を釣り、最近は漁師になつたようで、釣舟まで造つて海へ出ているとか。ゴルフのうではおちている。手ごたえがなくなつたので、練習するよううながしています。

地元福山市では、現市長の選挙参謀でもあり、土地の実力者である。（㈱立花商店社長）

（新日鉄㈱広畠厚生部長代理）

飯田弘昌さん39年度 村井と同級、藤井さ

り、幹事をされてましたので、福山の立花と一緒に、校友会に並べに組んでもらい三人で廻ったのが思い出されます。

（若山石油㈱社長）ロータリークラブのメンバーでもあり、なかなか貴重が出てこられました。

	OUT	IN	TOTAL	H'cp	Net	順位
高島	47	48	95	21.6	73.4	4
甲	46	44	90	14.4	75.6	⑤
福田	44	44	88	4.6	83.4	9
二郎	44	43	87	16.8	70.2	3
伊藤	53	44	97	12	85	B.B.
彰朗	48	45	93	26.4	66.6	② 優勝
佐藤	46	40	86	21.6	66.4	
村井	50	47	97	14.4	82.6	8
藤井	50	48	98	16.8	81.2	7
立花	46	41	87	9.6	77.4	6
大橋	49	50	99	2.4	96.6	11
佐々木充行						
BG 飯田弘昌						
青山ゴルフ場						
						84.10.15

顔は真黒、仕事がゴルフか? 笑うと白い歯が見えるので前後が判る位。

一日もゴルフをしたとか。フォームが悪いわりには、ベスグロとは……実力派かな。

佐々木充行さん41年度 德島に本社があるが、大阪に営業所を出しているとのこと。

大阪明柔会、無理矢理入会してもらいました。

当日の一番下の後輩になるので、少しばかり遠慮したよ。しかし、婦人の下着屋では日本一になると切っておられます。奥様、お嬢さん

方へ是非アドリスの下着をよろしく。

(㈱アドリス社長)

大阪明柔会、無理矢理入会してもらいました。

当日の一番下の後輩になるので、少しばかり遠慮したよ。しかし、婦人の下着屋では日本一になると切っておられます。奥様、お嬢さん

### 平島征也君を囲んで

鳴 海 誠

一

「ブラジルの平島は帰っているので、一ぱいやろうと思つて、君も出て来る様に云々」と連絡を小林(敏)先輩から受けた。二十三年ぶりに会う平島は、先輩にすすめられたと見えて稽古着姿で練習をしていた。私は一瞬、我が目を疑つた。彼は顔も体格もまったく昔のままである。

一度ゆっくり平島の話がききたい、と姿先生が言っておられた事もある。同期の私が送別会を開くことにした。近くにいて彼を知つてゐる年代に電話で連絡をとつたところ、急な事にもかかわらず、二十名を越す先輩、後輩の諸氏が馳せ参じてくれた。日頃から先

平島親子は再びブラジルに帰つていた。病の厚い父親を思えば、後髪を引かれる気持であろう。



平島君を囲んで楽しい集い  
董達に「まゝまが悪い」と指摘されている  
三五年度組も、川越に住んでいながら御無沙汰の点では、ブラジル並の野口をはじめ、杉町、  
小林(忠)と、いつにない集まりであった。大阪  
の金城から電話が入つたりして、平島にとつ

ては再会の喜びと別れの寂しさがどっちやになつた時間があつた。予定を一時間半も延ばしたがついでその時となり、全員で力いっぱい校歌と部歌を歌つて錢けとした。息子の手をにぎり姿勢を正して齊唱している彼の目に光るものを見た。

平島は、多分もう帰つて来る事はないだろう、と言つていた。とすれば今度は我々がブラジルの大体を訪ねる番か。彼地での発展と安全を心から祈る次第である。

出席者(敬称略) 委員会 神

永 小川 林(敏) 三四年度 渡辺(邦)

金丸 谷藤 佐久間(伊藤) 小笠原 三五

年度 平島 杉町 野口 小林(忠) 鳴海

三六年度 田中 高田 三七年度 田村 大

国 杉原 三九年度 小由

休日なのに、我々の無理をきき入れて店をあけてくれた、「ボケット」の皆様に、この紙を借りて御礼を申し上げます。おかげ様で楽しいパーティでした。

三五年度 育栄管材(株) 社長

## 紳士・婦人・子供 各種 帽子の ミヤシタ

(宮下光男 27年卒)

東京都葛飾区新小岩1-39-9  
新小岩銀座アーケード街  
電話 (651) 0691

食肉業界に奉仕する  
中島グループ

中島興業株式会社

代表取締役 中島辰平

中島畜産市場仲買株式会社

日本栄養食品株式会社

弘友食品株式会社

統合本社 東京都墨田区太平一丁目一六一八

● 東京03-542-4251

## サンバーグの冷凍食品

- JASが認定する高品質。
- 衛生検査100点・完璧な衛生管理体制。
- おいしさ便利さ、たちまち人気もの。

(旭化成グループ)

サンバーグ株式会社

茨城工場 〒306-04 茨城県猿島郡境町大字西原田字海道町1436-1  
TEL 028081-72531

## 中国料理 味乃一 番

平田博俊(三十年度卒)

本店

支店

浅草雷門通り

雷門一丁目通

二八四一-一七五〇一  
七七〇一九九〇

二七七九一九九一  
九九一九九〇

## 第28回 明柔会ゴルフコンペ参戦記

### 高田誠之助さん優勝

学苑会柔道部 坪 昌二

(昭35卒)

11月15日、埼玉県久選カントリークラブで行われた第28回明柔会ゴルフコンペに参加させて頂きました。カラカラ天気が続き、各地で水不足が心配されましたが、当日は「懸念」に満ちた中で、結果は、高田誠之助(昭36卒)が5アンダーダントツ優勝、2位は鈴木愛志(昭39卒)3位は神永昭夫、福田二朗(両先輩が同ネットで並びました)。両氏は共に昭33年度卒、同年会でしたが生年月の差で福田先輩が入賞、新ハンデ9となりシングル入りされました。参加人員総数12名、今回は学苑会から私を含め4名参加させたが、同じ組に

頂きました。前半(西コース)を40で廻った福田先輩が優勝と思われましたが、同じ組に

頂きましたが、生年月の差で、結果は、高田誠之助(昭36卒)が5アンダーダントツ優勝となりました。カラカラ天気が続き、各地で水不足が心配されましたが、当日は「懸念」に満ちた中で、結果は、高田誠之助(昭36卒)が5アンダーダントツ優勝、2位は鈴木愛志(昭39卒)3位は神永昭夫、福田二朗(両先輩が同ネットで並びました)。両氏は共に昭33年度卒、同年会でしたが生年月の差で福田先輩が入賞、新ハンデ9となりシングル入りされました。参加人员総数12名、今回は学苑会から私を含め4名参加させたが、同じ組に

頂きました。前半(西コース)を40で廻った福田先輩が優勝と思われましたが、同じ組に

頂きましたが、生年月の差で、結果は、高田誠之助(昭36卒)が5アンダーダントツ優勝となりました。カラカラ天気が続き、各地で水不足が心配されましたが、当日は「懸念」に満ちた中で、結果は、高田誠之助(昭36卒)が5アンダーダントツ優勝、2位は鈴木愛志(昭39卒)3位は神永昭夫、福田二朗(両先輩が同ネットで並びました)。両氏は共に昭33年度卒、同年会でしたが生年月の差で福田先輩が入賞、新ハンデ9となりシングル入りされました。参加人员総数12名、今回は学苑会から私を含め4名参加させたが、同じ組に

過去20数回参加しながらずっと遠慮していた(本人の)坪田さんが、週末2日は必ずアルコール一切抜きの完全休日だという換生が実って、後半バーハ個という誰も信じない(?)抜群の成績で優勝されています。

次回は全日本選手権大会の翌日、昭60年4月30日、コース良好、キャディ良し、値段も良しと三拍子揃った久選カントリークラブで10組の大コンペが予定されています。

私は、一九六〇年(昭和三四四年)、卒業と一緒に、アメリカ留学などとカッコウのいい名目で、先輩方の懇切な就職の御世話を辞退し、両親の保障で銀行から借金をし、旅費の都合をつけて、ひょっこり一身ロスアンゼルスにたどり着いたのが二十五年前でした。実際現地へ到着してみると、アメリカ留学にあたっていかざされていた就学条件とは、すい分違います。私の考えていたアメイリカ留学生活、「柔道を適当に教えながら学校へ通える」のは、おかしいな? と段々わかつてきた時に、何で俺はすき好んで日本での良い就職口をほったらかしてこんなところへ来てしまったんだろうなど泣きながら、毎晩、明日食う事を心配しながら英語の勉強にとり組む羽目におひらいておりました。



ロスアンゼルスから

篠原一雄

会報を送り頂き始めから早くも一年半、アメリカ生活25年目に接した

明柔会報の感激

明柔会員の皆様におかれましては、アイデアから原稿集め、編集、広告、印刷、郵送と御苦労されていますことと思います。しかも長いだけ方不明様の私にまで毎回御送付頂き、厚く御礼申上げます。今日は会報一号に接した時の感激と、私のロス在住25年間の

級生の神永先輩がおり、強烈な「支援」? が効を奏して優勝を遂ぎました。

ハンド? やはり有名? の高かった神田先生は前半

の途中で第2打を、ほぼ真横に打つ大ショック、そのショックがラウンドする迄つた様

です。でも確実にホールをとらえるショックです。ダンスイングは年令を感じさせず(?)印象的でした。豪快なスイングで飛距離はプロ並み(?)の神永先輩と福田先輩が、小技も冴えニエピ賞 ロングドライバーで飛びで打った鈴木君と漢方万葉家本草正中(昭35卒)さん

です。超100KG級が居並ぶ中で、ひときわ大きい初参加の湯浅政一君(昭42卒)は随所に素晴らしいショットを見せましたがメーカーとなり「今後の目標ができます」と御挨拶。

過去20数回参加しながらずっと遠慮していた(本人の)坪田さんが、週末2日は必ずアルコール一切抜きの完全休日だという換生が実って、後半バーハ個という誰も信じない(?)抜群の成績で優勝されています。

次回は全日本選手権大会の翌日、昭60年4月30日、コース良好、キャディ良し、値段も良しと三拍子揃った久選カントリークラブで10組の大コンペが予定されています。

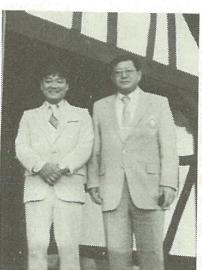
道場とは一味違った、和気藹々たる一日を過ごさせて頂きました。

本当に有難うございま

順位	氏名	東	西	グラス	ハンド	ネット
優勝	高田誠之助	40	42	15	67	
2位	鈴木愛志	45	45	90	16	74
3位	神永昭夫	47	40	87	8	77
4位	木村朝正	42	42	42	15	77
5位	鈴木貢	40	38	78	0	78
6位	木村正	42	47	89	6	83
7位	山田朝彦	45	47	92	8	84
8位	佐藤俊治	49	55	104	20	84
9位	木村朝	55	50	103	16	87
10位	神永大輔	46	46	91	3	85
B.M.	鈴木政一	57	54	111	20	91



当日参加者



篠原・神永  
(ロス五輪会場付近)

柔道を通じての渡米、柔道を通じてアメリカでの就職、そして生活も慣れ始め、柔道に対して責任感のようなものを感じ、アメリカ柔道にも貢献しようと思地の柔道の若造の高段者に会いました。専門会員、南加有段者会の会員計35名の巡回指導を始め、南加有段者会の会員長なども務めました。しかし経済力もなく世間知らずで全く未経験の若造の高段者では、まわりと意見が合はずもありません。

政治的な道場通りに利用されたり、人に面と向いて自分では言えない様なことを知らないうちに代理で言わされていたりの連続で、今日の味方は明日の敵といった八方ふさがりの完全に孤立した状態となってしまいまして。ここに至ってはアメリカ留学のみを完全に手放すことを決意しました。仕事に手を貸すことをやめて、専門会員としてアメ

リカの会員長なども務めました。しかし経済力ではなく世間知らずで全く未経験の若造の高段者では、まわりと意見が合はずもありません。

政治的な道場通りに利用されたり、人に面と向いて自分では言えない様なことを知らないうちに代理で言わされていたりの連続で、今日の味方は明日の敵といった八方ふさがりの完全に孤立した状態となってしまいまして。ここに至ってはアメリカ留学のみを完全に手放すことを決意しました。仕事に手を貸すことをやめて、専門会員としてアメ

リカの会員長なども務めました。しかし経済力もなく世間知らずで全く未経験の若造の高段者では、まわりと意見が合はずもありません。

政治的な道場通りに利用されたり、人に面と向いて自分では言えない様なことを知らないうちに代理で言わされていたりの連続で、今日の味方は明日の敵といった八方ふさがりの完全に孤立した状態となってしまいまして。ここに至ってはアメリカ留学のみを完全に手放すことを決意しました。仕事に手を貸すことをやめて、専門会員としてアメ

リカの会員長なども務めました。しかし経済力もなく世間知らずで全く未経験の若造の高段者では、まわりと意見が合らずもありません。

政治的な道場通りに利用されたり、人に面と向いて自分では言えない様なことを知らないうちに代理で言わされていたりの連続で、今日の味方は明日の敵といった八方ふさがりの完全に孤立した状態となってしまいまして。ここに至ってはアメリカ留学のみを完全に手放すことを決意しました。仕事に手を貸すことをやめて、専門会員としてアメ

けた子供達のまばらしが生命を呼びもどす力ちくす事もないだろうと言う事になったのでしょうか？安い月給取りが現地の女性となり結婚しました。子供も二人生れましたが、やはり国際結婚の難しさ、生活様式の違い、格の不一致などがからみで定まりの生活方に追込まれました。その解決策の一つの手段だと信じて、大借金をして貿易商を無駄砲にも始めてしまいました。しかし商売に対する自信の未熟に拍車をかける様に、港湾業の影響をとともに受け失敗、前後して結婚生活にも終止符が打たれました。学生時代も渡米後も、柔道の試合には勝つ事が多くて「柔道では負け」を余り知らなかった私は、この時の敗北感を言葉ではあらわす事が出来ません。

よがれ果てた衣類をまとい、だらしない足りでロスアンゼルスの街路を空腹と寒さをまことに生き残りました。しかし、自分の学生時代が目前によみ返り、過去二五年間柔道会から疎遠であったロサンゼルスの生活をぶり返り、「俺も明柔会の一員であつたのだ……」と感激と誇りが胸にこみ上げてきやした。涙を流しながら会社で会報を何度も何度も読みかえし、女の子に「社長、何があったのですか？」などと聞かれたくらいでした。そして、自分が本当にドン底の生活を絶えざるを得なかった時に、この会報があつたら如何に心の励みになつただろと深い思いにふけた事でした。

明治48F号の巻頭言“心の傷”で百瀬忠夫博士が云われている未来に向う動機を考え時、自分の青春時代からこれまでが感慨深く蘇ってきます。

(株)三建  
専務取締役 小川 登志雄  
(33年度卒)  
中央区新川2-10-6  
(電) 03-553-7553代

## 中華麺 大盛軒

有限会社 小寺商店  
代表取締役 村上京杉

練馬店……内武池袋駅前(山川駅前) 電(03)8780  
中野店……内武池袋駅前(山川駅前) 電(03)3715743

ジャムの専門メーカー  
JAS規格認定工場／輸出製造認定工場  
株式会社スドージャム

東京・大阪・札幌・仙台 工 松本  
名古屋・福岡・松本 場 三木(兵庫県)  
長野県本店市立本館 5958番地 電(052)26-6811

春日接骨院  
春日邦人(37年度)

〒189 東村山市富士見町5-1-77  
電話 0423-93-5669

国内、海外を問わず、学生、OBを問わず、同門がこの会報を通じて心と心を密接につなぎ、無言のうちに励し合い、なぐさめ合い、学び合って自己的向上に努めるべきであります。

世界を舞台に、映画・テレビ産業の中心、ハリウッドのノウハウをたまみに生かしてはなやかに明け暮れた一九八四年夏のロサンゼルス・オリンピック開催中に、神永先輩と上村君にお会いし、明柔会諸兄の近況を伺いました。ロサンゼルスオリンピックを期に、私も及ばずながら、今後学生諸兄を激励する事に務めたいと存じます。そして、学生諸君も海外の明柔会OBが母校の柔道部を率ぐる様な、充実したうれしいニュースを会報に連載される様に頑張って頂き、明柔会員全員の未来に向う動機となる様念願いたします。

T-BIRD FORDERS INC. 社長

(三四年度  
主将)

な  
が  
い

料亭メンバーズ

永井佑治(昭和三三年度)

ガソリンスタンド

ガソリン・軽油・白灯油・各種オイル  
その他カーア用品

株式会社 力ネマツ  
代表取締役 鈴木紀一(三八年度)

浜松市布橋三丁目七十二

電(053)534-71-1505四二

元気でやっています



S.45 全日本学生 対日大 依田戦  
支え釣り込み足



本社 オフィスにて 59.10

## 国 安 均

(旧姓 佐々木)  
(昭四五年度)

◎有男鹿興業社の概要

設立	昭和三九年四月二〇日
従業員数	三三三名
事業内容	石油製品販売
年商	約三〇億円

四六年三月卒業後旭化成入社。五〇年一二月迄約五年間大変お世話になりました。郷里の恩師、国安重雄の急死により五一年一月から師の経営する㈲男鹿興業社を後継。現在、専務取締役。又、㈲北日本商事 代表取締役社長。

秋田に赴向かれました時はお立ち寄り下さい。



29年地下道場



59年 自社前にて

元気でやっています

## 松 岡 義 隆 (昭三十年度)

私の住む八代(やつしろ)は熊本県の中部に在り、日本三大急流の二つに數えられる、球磨川(くまがわ)の河口に臨む、人口一〇万少しの市であります。古来不知火(しらぬい)の名所、亦宇土半島、天草の島々に抱かれた内海、八代海に面し、十条製紙、三楽オーシャン、興国人絹などの工場も点在して居りますが、や

はり農業を中心とした都市で、農表のイ草は全国の約六〇%を産出しております。細川氏の支藩松氏の旧城下町での石油製品(日本石油)を小売販売してサービス・ステーションを二ヶ所経営して居ります。

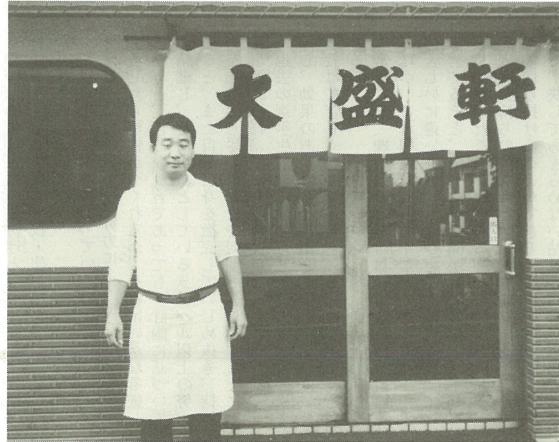
名称 松岡商事株式会社 年商約四億円  
社員 一五名  
家族は妻淑子(五〇才) 長女弥生(二六才) 次女眞樹(三三才) 長男隆志(二〇才)才明大柔道部三年で、娘二人は現在福岡にて幼稚園の教諭をして居ります。

元気でやっています

元気でやっています

# 大正一戸同居

家族	昭和四十五年
長男	西武百貨店入社
次女	五十二年 同退社
妻	五十三年 ラーメン店大盛軒開店(在古田)
夫	五十六年 東中野店開店
夫	五十九年 練馬光ヶ丘店開店
夫	五十九年 南浦和店開店
千代子 (三十六才)	昭和四十五年 西武百貨店入社
多加子 (小三九才)	五十二年 同退社
(小一七才)	五十三年 ラーメン店大盛軒開店(在古田)
	五十六年 東中野店開店
	五十九年 練馬光ヶ丘店開店
	五十九年 南浦和店開店
有子 (小五一才)	昭和四十五年 西武百貨店入社
有子 (小五十一才)	五十二年 同退社
	五十三年 ラーメン店大盛軒開店(在古田)
	五十六年 東中野店開店
	五十九年 練馬光ヶ丘店開店
	五十九年 南浦和店開店



村上京杉（昭四四年度）

東京出身



おいしいものを安くという  
のは、当たり前でいくらぐらいの  
価格であればお客様が納得し  
て食べててくれるか、この値頃  
感をいつも頭に入れて商売を  
しています。

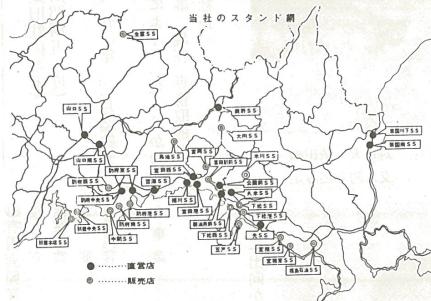
藤井洋二  
若山石油社長

二（昭三一年度）

山口県南陽市富田四一二



送別会にて（33年3月）



社員たちと

# スポーツ隨想

この文は、今夏共同通信を通じて、各地の新聞に連載されたものです。

編集部

## 根性と勝負



昔から根性という言葉は、よく使われてきたが、東京オリンピックを前後して、バレーボールの故大松監督が根性を強調して以来、スポーツ界はもちろんのこと、マスコミや一般の人たちまで、何かあるごとに、あいつは根性があるから立派だ、ないから駄目だと頻繁に使うようになった。

一体根性とはどういう意味か辞書で調べてみると、根性とはここですね、根性のことであると書いてある。そこでまた根について調べたところ、根性と出ている。結局のところ漠然として分からずじまいであった。根性とは一体何であるのか、私流に解釈すると、どんなに苦しい立場と不利な状態であっても、何くそとその状態に耐え、そのピンチをぬのけ、切り抜けようとする反骨精神をいうのではないか。試合を勝負を競う場合、あいつは根性があるから勝った、ないから負けたと軽々しく批判されがちで

あるが、果たして根性だけで勝負に勝てるかと言われても決して勝てるものではない。

勝つためには根性の裏付けとなる、厳しい修業と激しい練習によって培われた心・技・体が相まってこそ、初めて実力が發揮されるのである。

では根性は先天的に持っているのかというと、決してそうではなく、環境と自己の努力によってつくられるものである。

どうしたら根性がつくれるか、それはいかなる厳しい環境であろうと、苦しい練習であっても、計画に基づいて日々と努力精進し、常に目標としているライバル以上の努力を心掛けること、また自分自身を徹底していじめ抜き、持っている能力を十分出し尽くすことを何度も繰り返すことによって、心身が鍛えられ、充実し、根性がつくられる。

過去の選手生活で体験した、勝負に対する心構えとして実行し、効果のあった体験を紹介すると、それは試合中に自分が疲れて苦しくなってきたら、「しまだ」と思えることである。

常日ごろ、練習量では絶対負けないだけの自信を持っている私が、これ程疲れて苦しくなってきたのだ。相手は私以上に苦しいに違いない。もうひと踏ん張り頑張って攻めれば必ず勝てるぞと、自分に言い聞かせて奮起し、不利な試合を逆転して勝ったことが多かった。

人間気持ちの持ち方いかんで、ピンチをチャンスに置き換えて切り抜けることができる。勝負を競う場合は最後の最後まで、決してあきらめない粘りの精神が大切である。

## 両手使い

柔道選手で左右同じように技が使える選手は極めて少ない。スポーツ界全体をみても、この現象は同じ傾向にある。

私自身も選手時代を振り返ってみると、左技を中心で、右技も何種類かは練習したが、左右同じようには使えなかつた。その理由はなぜであろうか。

答えは簡単である。左ほど右を使わなかつただけである。ある音楽家の著書に非常に感銘を受けたことが書いてあつたので、抜粋し紹介すると。

「自分の能力を育てるのはだれか。生まれつきで能力は育つていいのではない。それは自分だ。みんな自分が自分を育てるのだ。お前の左手は右手にはるかに劣っている。遊ばせておいたからだ。同じお前の左右二つの手でさえ、ふだんから訓練している方としなかつた方ではこうも違う。お前自身の人間としての能力も同じことだ。右の手を見よ。お前自身をその毎日訓練すれば、力が生まれ、感覚が育ち、お前の能力が育つてくる。いかなる能力も生まれつきで発揮されることはない。育つようになりもしないで、生まれつきのためだと考えるのは、お前の愚かさだ。自分で育てる努力をするとき、能力はつくられていく。つくるのは自分自身だ。右手はそれを知っている」

さて柔道家はどうであろうか。音楽家が言うように、左手を遊ばせてはいないだろうか。右技だけで柔道を行い、能力

を半減してはいないだろうか。

同じように技が使える幅は倍加し、防御も従来の対応と違ったものになるだろう。柔道の今後の発展のため、現在の指導内容を見直し、初心者から左右同じように練習する指導制度を確立させることも一つの方法である。

例えば初段に昇段させる際、手技・足技・腰技のうち必ず一つは左右同じように熟せる技を体得させることを条件とする。もちろん黒帯に値する実力も当然必要条件ではあるが、少なくとも三段に昇段する場合は、附加条件を加味した昇段制度を提案し、低迷する柔道界に活を入れる。

## 急がば回れ

柔道志す後輩から、柔道が強くなる良薬、特効薬はあるまんかとよく質問されるが、誠に残念であるが、そのような効力のある薬はないと言っている。

しかし、良薬はないとしても、それに代わるものとしては、一つは基本を大切にすること、二つは自ら進んでやろうといふ意欲、三つは創意と工夫が挙げられる。この三点は柔道の修業には非常に重要な要素であるが、今回は特に基本について触れてみたい。

スポーツでも学問でも、一番大事なものは基本である。基本動作を十分体得しないで次のステップに挑戦しても、技術は向上しない。また無理して行つても、階段を一気に四段も五段も飛び越えて上ることと同じで、けがのもとになるだけ

である。早く上達を心掛けようとする人ほど、基本的に時間をかけて努力することである。

基本は単純な動作の繰り返しが多く、つい力を抜いたり、ばかりかしくなって途中でやめたりなりがちである。しかし、この単純な動作を、何度も反復練習することによって、基礎体力が養成され、体も柔軟になり、応用変化にも耐えられる動作が身につくのである。

「急がば回れ」と昔からよく言われるように、基本こそ回り道であり、そして実は近道なのである。回り道（苦労）をして、近道を知った方が、悪条件の中でも平素持っている力を十分發揮することができる。スポーツのトレーニングの目標は、基本を繰り返し行い、無駄を省き、美しいフォームを持つことにある。だれがみてもきれいだなあ、美しいなあと思つフォームは、無駄がなく、合理的な姿になつていて、

初めは三角で、だんだん角が取れ、円に近くなつてくる。無駄をいかに省くか、合理性の追求がスポーツを発展させる原動力となつていて、このところスポーツ界はもちろん、社会全般において、科学的・合理的に、また能率的に物事を考え、処理する傾向にある。このことは基本的には重要なことはあるが、スポーツにおいて真の合理性を追求するためには、いろいろ無駄を省く回り道をしながら技術と精神面を鍛える方が大事ではないだろうか。その余裕の中から新しい技（芽）が生まれてくるのである。

このところスポーツ界は、だんだん角が取れ、円に近くなつてくる。無駄をいかに省くか、合理性の追求がスポーツを発展させる原動力となつていて、このところスポーツ界はもちろん、社会全般において、科学的・合理的に、また能率的に物事を考え、処理する傾向にある。このことは基本的には重要なことはあるが、スポーツにおいて真の合理性を追求するためには、いろいろ無駄を省く回り道をしながら技術と精神面を鍛える方が大事ではないだろうか。その余裕の中から新しい技（芽）が生まれてくるのである。

# 創立八十周年記念

昭和六十年は、我が

明大柔道部が創立され

て、八十周年にあたり

ます。記念事業の実施

につきましては、只今、

事務局で検討中であります。この件につきま

しては、又、あらため

ます。記念事業の実施

につきましては、只今、

事務局で検討中であります。この件につきま

しては、又、あらため

## 明治大学柔道部-----

明柔会事務局

# 隨筆

(原稿到着順)

## 我未成の時代

小林久繁



59(宇宙と春島)年と次女で  
小生の公室と園にて

昭和二十九年春卒業して建設会社に入社し、今日迄三十年の内、大半をダムやトレンネルと山奥の飯場暮しの所為、柔道と縁が切れてしまい、諸先輩には御無沙汰を致し、不義理を重ね、後輩諸君の御活躍も新聞やテレビで拝察する程度で、全く役に立てなくて申訳ありません。この紙面をかりてお詫び申し上げます。

明柔会名簿を開きますと、二十八年度卒業生は三人ですが、故人となられた末木氏は入学当時は大変恐ろしい先輩の一人でした。昭和二十六年から明大柔道部全盛時代以後の部員をみても、三名という少數の年代はあります。明柔会は三十一年代で、

中学三年で一段になり、田舎ではお山の大将、優雅な高校時代を過し、二十三年卒業山崎昌徳先輩が三軒隣の幼馴染で、しかも柔道の先生と弟子との関係もあった縁で、勇躍胸を張って二十五年春明大受験のため上京致しました。

旧館の地下に降りて、地下室のような薄暗い狭い道場に参りますと、「怖い顔をした色黒い全身筋肉の塊りの人が、いきなり『坊やいらっしゃい、稽古をつけてあげよう』と小生を蹴飛ばします。この野郎と全力を擧げてぶつかってはみたものの、全く歯がたず、空中を舞わされているばかりに足が足りません。つっきり最上級生の猛者と思つてしましたら、當時最下級生の大野忠博氏といらっしゃい、稽古をつけてあげよう」と小生を蹴飛ばします。

この野郎と全力を擧げてぶつかってはみたものの、全く歯がたず、空中を舞わされているばかりに足が足りません。つっきり最上級生の猛者と思つてしまたら、當時最下級生の大野忠博氏といらっしゃい、稽古をつけてあげよう」と小生を蹴飛ばします。この野郎と全力を擧げてぶつかってはみたものの、全く歯がたず、空中を舞わされているばかりに足が足りません。つっきり最上級生の猛者と思つてしまたら、當時最下級生の大野忠博氏といらっしゃい、稽古をつけてあげよう」と小生を蹴飛ばします。



監督、小田先生がどんと控えて睨みを利かせ叱咤激励。姿師範、久米先生はエネルギーの塊りそのもので、学生にはりはり稽古をつけおられました。

小学生がスマミナが切れて喘いでいる、恐

ろしい雷が落ち歓りとばされたものです。

伊藤信夫先輩の切味のよい跳腰、ブルドー

ザより強力な牛氣泰興先輩の釣込腰、一年

星の如く並び、それぞれすさまじい特技を持

ついて、一年生に運つかせてくれませ

んでいた。門屋先輩に寝技でじわじわ攻めら

れると、精根尽きてついで殺してもらいた

い気持でした。末木先輩はやんちゃ坊主をそ

のまま大人にした様なところがあり、締められ

て小学生が気が速くなりそうになりますと、

少し緩めます。意識を快復して深呼吸をしよ

うとすぐに次の腰を發揮に入ります。生死の境を五、六回往復しますと、生きる希望を無くしたものであります。後年になりますが、末木式

蟻地獄で攻められても一向に動けず、ける

としていたのは波多江健一唯一一人で、彼の胆

玉にはいさかか驚かされました。

三十人程は入部したのは部員が一人消え

一人居なくなり、蒸発して一年の終りには二

いたら四、五名が生残り、三年の終りには二

名、三年の終り頃には同期入部生は皆無とい

う状態で、運の悪い年代に育ったとも言えま

すが、小学生一人で先輩絶当りの感があり、毎

日天井の螢光灯が震んで四つにも五つにも見

していたのは波多江健一唯一一人で、彼の胆

玉にはいさかか驚かされました。

三四年目に、石橋、中野、小林等、又もや豪

座して膝を正し姿勢を直して整列しました。

日本では他にも予定があり大変忙しいので、

言だけ挨拶すると、おもむろに懐中時計を出

されで眺めながらお話をが始まりました。

「私は柔道の試合で未だ敗れた事無し」と宮本武蔵の五輪の書と同様の話で順次、明治大正、昭和の柔道史を詳説致しました。忙しい忙しいと言わで、時計は眺めるのでそれが話は一向に終りません。練習最後ので稽古着は汗まみれ、腹はすべく、おまけに痔れが爪先から腫、さらに腰迄段々と昇ってきます。最近近くはお話も耳に入らず、延々二時間半の大講演が終り、先生がお帰りになつたので長々と伸びて横を見ると全員が倒れていたのを思い出します。

当時、全日本柔道選手権が近づくと、出場するトップクラスの選手が毎日の様に調整を来されました。吉松、松本、醍醐、夏井の諸先生です。

柔道の強化の様な諸先生に小学生が気合を入れてぶつかり稽古をして戴きましたが、幼児と大人の違いが歴然として居り、技が全く通じません。ここ迄上達するには生れかわるしかないのかと落胆したものです。



昭和28年夏 中國路遠征時(神戸で)

える有様、体力が稽古に追付けず、苦労致しました。

稽古前に地下室の階段にしがかると、屠殺場に引連れて牛の様な氣持になったもので

す。幸か不幸か病氣もせず、腕一本も折れてくれないので逃げ出す理由もなく、とてもかく一年間は無我夢中で頑張りました。

二年生になりよいよ後輩が入部して来ます。これで少しは面倒を見る立場になります。密かに楽しみにしていましたが、この後

輩中の強い事、山尾、兩渡辺、岩崎と手玉

にとられ煽られるばかり、上から攻められ、下からは壓力をかけられ、立つ瀬のない孤軍奮闘であり、同期に心強い仲間のない寂しさをつづくべき味わいました。

上下からぱる雑布の様に面倒を見られてる時、軽い痔病になりました。絶好のチャノスと最大限の形容詞を用いて病氣を理由に恐る恐る退部を願い出ました。金子キャブテンに鶴の一聲(ライオンの「唸り」で切ない声)で蹴りとばされて、今後は氣楽な学生生活を過しました。

其の頃でしょうか、三船久蔵先生が稽古後の道場に来賓されました。神様のよう先生

ヤブテンの山尾君と小学生が副将の肩書をもらいました。当期の入部者のが浅野、小林、波多江、北海道の本間、五島、諸君です。

此の頃には一年生に煽られることもなく、御交際頗っていたのですが、惜しい人を亡くしました。同期生として彼と公私共に金魚の黄

の様に繋がって行動をともにし、同じ金の飯の仲間として卒業後もお互いに連絡下さい。

御冥福を祈つてやみません。年からはじまった学生柔道の組織が未完成でありましたので、内部の事は未木氏にまかせましたが、一二十六

年からはじまった学生柔道の組織が未完成でありましたので、内部の事は未木氏にまかせましたが、一二十六

総てを人生の師表にして今日迄参りました。

部で鍛えられた体力と根性のお陰でしょ。工事現場の二十四時間フル稼働徹夜、残業は通常業務でしたが、苦労と思つたことはありません。充分余裕をもって仕事をこなしてきました。

鍛えた体力の余韻ですか、大病もなく、すこぶる健康、唯年と共に頭髪も薄くなり、足腰が弱り、老眼鏡の世話にもなっていますが根性だけは未だ健在。競争の激しい建設業界の営業マンとして頑張っております。

これも御指導いたいた諸先生、諸先輩とともに汗を流した皆様のおかげと深く感謝しております。

明柔会の皆様の益々の御発展、御健勝をお祈りして筆をおきます。

一八八年度 大成建設(株) 松山市在



原稿を書け——と連絡がありました。なにしる市場法で、それがいつやつは生来苦手で一体何を書けばよいのや……と提案の毎日ありました。が、いつまでも尻込みをして書るためにいかず、結局ギリギリになつて書いたのが「近況管見」という、なんともまともないこの文章です。

近況報告の前に私が昭和二十八年入学当時

地下道場での練習の厳しさ、日黒での合宿生

活動、合宿所生活は一年間、毎日でした。

もうろくに口を通らない位の口の中がハレがあり涙の毎日でした。

それでも今思えば、当時の懐かしさが偲ばれます。北海高時代、全道優勝そして全国大

会と駒を進め、恐いもの知らずの最上級生からドン底の最下級生に急転、つらい毎日でした。私は体が小さかったため、どの先輩も大き見え特に未木先輩などは力の塊の様な感じでした。昭和二十八年時は一般的食堂躍のOBのみなさん、お元気でお過ごしのことと拝察いたしました。

さて、このたび遂にわたくしのところにも

原稿を書け——と連絡がありました。先輩もまた、なにしる市場法で、それがいつやつは生来苦手で

一体何を書けばよいのや……と提案の毎日ありました。が、いつまでも尻込みをして書

いたのが「近況管見」という、なんともまともないこの文章です。

近況報告の前に私が昭和二十八年入学当時

地下道場での練習の厳しさ、日黒での合宿生

活動、合宿所生活は一年間、毎日でした。

もうろくに口を通らない位の口の中がハレがあり涙の毎日でした。

それでも今思えば、当時の懐かしさが偲ばれます。北海高時代、全道優勝そして全国大

会と駒を進め、恐いもの知らずの最上級生からドン底の最下級生に急転、つらい毎日でした。私は体が小さかったため、どの先輩も大き見え特に未木先輩などは力の塊の様な感じでした。昭和二十八年時は一般的食堂躍のOBのみなさん、お元気でお過ごしのことと拝察いたしました。

さて、このたび遂にわたくしのところにも

原稿を書け——と連絡がありました。先輩もまた、なにしる市場法で、それがいつやつは生来苦手で

一体何を書けばよいのや……と提案の毎日ありました。が、いつまでも尻込みをして書

いたのが「近況管見」という、なんともまともないこの文章です。

近況報告の前に私が昭和二十八年入学当時

地下道場での練習の厳しさ、日黒での合宿生

活動、合宿所生活は一年間、毎日でした。

もうろくに口を通らない位の口の中がハレがあり涙の毎日でした。

それでも今思えば、当時の懐かしさが偲ばれます。北海高時代、全道優勝そして全国大



### 明柔会と私

水野 留次郎

私は戦前朝日新聞社に入

三十一年度 海老見 社長

朝日在籍のま

五年に卒業しました。当時の新聞科長、政経業、東京都知事の許可がなければ業務はできません。東京都の市場条例には定数があり誰でも仲卸業になれるというものではありません。ちなみに、東京都には三つの市場は国の計画によつて造られ、東京都が開設している公的機関です。私のいる大森魚市場はそのうちの一つであり、城南地区といつて東京都内の南部地区的消費者に生鮮食料品を供給するという、極めて公的性の強い仕事といえます。施設(店舗)は東京都が貸与してくれます。都民に日々の食料品を供給するとい

ます新聞高等研究科を経て専門部経済科を二十



### 近況管見

滝本 满治

全国でご活躍のOBのみなさん、お元気でお過ごしのことと拝察いたしました。

あの当時こんな歌を誰が唄うともなく、今日もコロッケ、明日もコロッケ、とうとうコロッケばかり毎日食べさせられました。それでも朝の小母さんにとって、品不足の時代でしたので、合宿所生活も大変でした。あの当時こんな歌を誰が唄うともなく、今日もコロッケ、明日もコロッケ、とうとうコロッケばかり毎日食べさせられました。ほんとうに懐かしい思い出話が出来ました。私も北海道から上京して早や三十数年が過ぎましたが、本年、いよいよ五十路を迎えるました。しかし、年令にめげず仕事の合間を見て週三、四回近くの中学校の柔道指導員として汗を流し、若い力を授けています。私がなぜ師範の指導員をやっているか、といえば午前の仕事だからです。私の職業には、京都中央卸売市場大森市場卸業といふ、やたらに長い名前がついております。一応社長

会と駒を進め、恐いもの知らずの最上級生からドン底の最下級生に急転、つらい毎日でした。私は体が小さかったため、どの先輩も大き見え特に未木先輩などは力の塊の様な感じでした。昭和二十八年時は一般的食堂躍のOBのみなさん、お元気でお過ごしのことと拝察いたしました。

さて、このたび遂にわたくしのところにも

原稿を書け——と連絡がありました。先輩もまた、なにしる市場法で、それがいつやつは生来苦手で

一体何を書けばよいのや……と提案の毎日ありました。が、いつまでも尻込みをして書

いたのが「近況管見」という、なんともまともないこの文章です。

近況報告の前に私が昭和二十八年入学当時

地下道場での練習の厳しさ、日黒での合宿生

活動、合宿所生活は一年間、毎日でした。

もうろくに口を通らない位の口の中がハレがあり涙の毎日でした。

それでも今思えば、当時の懐かしさが偲ばれます。北海高時代、全道優勝そして全国大

会と駒を進め、恐いもの知らずの最上級生からドン底の最下級生に急転、つらい毎日でした。私は体が小さかったため、どの先輩も大き見え特に未木先輩などは力の塊の様な感じでした。昭和二十八年時は一般的食堂躍のOBのみなさん、お元気でお過ごしのことと拝察いたしました。

さて、このたび遂にわたくしのところにも

原稿を書け——と連絡がありました。先輩もまた、なにしる市場法で、それがいつやつは生来苦手で

一体何を書けばよいのや……と提案の毎日ありました。が、いつまでも尻込みをして書

いたのが「近況管見」という、なんともまともないこの文章です。

近況報告の前に私が昭和二十八年入学当時

地下道場での練習の厳しさ、日黒での合宿生

活動、合宿所生活は一年間、毎日でした。

もうろくに口を通らない位の口の中がハレがあり涙の毎日でした。

それでも今思えば、当時の懐かしさが偲ばれます。北海高時代、全道優勝そして全国大

会と駒を進め、恐いもの知らずの最上級生からドン底の最下級生に急転、つらい毎日でした。私は体が小さかったため、どの先輩も大き見え特に未木先輩などは力の塊の様な感じでした。昭和二十八年時は一般的食堂躍のOBのみなさん、お元気でお過ごしのことと拝察いたしました。

さて、このたび遂にわたくしのところにも

原稿を書け——と連絡がありました。先輩もまた、なにしる市場法で、それがいつやつは生来苦手で

一体何を書けばよいのや……と提案の毎日ありました。が、いつまでも尻込みをして書

いたのが「近況管見」という、なんともまともないこの文章です。

近況報告の前に私が昭和二十八年入学当時

地下道場での練習の厳しさ、日黒での合宿生

活動、合宿所生活は一年間、毎日でした。

もうろくに口を通らない位の口の中がハレがあり涙の毎日でした。

それでも今思えば、当時の懐かしさが偲ばれます。北海高時代、全道優勝そして全国大

女性などもおり、五十人以上が週一回丸の内警察署場道で汗を流しております。昨年朝日新聞で紹介されたのでご存知の方もあると思ひます。

私が朝日の発送部長をしている時、学生アルバイトが組合を結成し、過大な要求を出し毎日ストを連発して新聞の発行が危ぶまれたことがあります。

新日本鉄に神永氏を訪ねて協力を願いいた所、快く小野瀬君他十名の部員をアルバイトとして直ちに投入して頂きました。これが契機となつて労働問題が解決しました。今でも感謝しております。

明大柔道部について感想を申し上げれば、東海、天理等におされやや精彩を欠いている様ですが、立派な指導者、先輩もおられる事です。現役OBが一丸となつて努力すれば黄金時代の再現は可能と信じております。その日の一日も早からんことを願つて筆をおきます。

四年度

朝日産業株式会社社長  
柳田明雄



社会人七年目となりましたが、この道を志した時から明大柔道部(明柔会)との出会いが始まっていた様に思います。

私は東京千住の生まれですが、もの心がついた頃は草加市に居ました。埼玉我がふるさとといった感が致します。

柔道は市立の中学校入学してから始めましたが、生徒だけで活動している様な部でしたので、早速書店で買い求めたのが故に根康治先生の柔道教室でした。写真で見る明大柔道の技、輝かしい実績、自分も将来は明大柔道部へ不勉強な我々の入学にあたり、



京葉ガス柔道部台湾遠征記念

柳田明雄

山崎英男部長、神田和夫監督、関勝治助監督には大変な御尽力をいただき、今も感謝している次第です。道場には姿態推進師範を筆頭にたくさんの先生方、OBも多く、博報堂柔道部も全盛でした。学生も原吉実主将をはじめ強い人がばかりで毎日投げられてばかりでした。学業のほうはどういう、四年間で二回もロックアウト、試験中止でレポート提出になる

年の少年にはそれは正に夢がありました。

修徳高校へ進んでからは田潤裕先生(現東京柔道整復専門学院)に徹底した基本から指導をしていただき、我流からの脱皮ができました。そして三年生に市原弘一先輩、二年生に加瀬次郎先輩と立派な先輩に恵まれた事もあわせありました。

両先輩に統いて、四十九年に夢であった明大柔道部へ不勉強な我々の入学にあたり、

という幸運?にも恵まれ、勉強をした記憶がほとんどありません。やはり柔道部が大学生活のほとんどであります。

四年間で一番辛かった事、それは正選手になれなかつたという事でした。中学、高校と主力でありましたので、初めての経験であり練習の辛苦はともかくとして、これは耐え難いものであります。でも、これによつて試合に出られない者の辛さが初めてわかり、人の気持ちを考える様になつたと思ひます。

五十三年卒業、鳥海スミ郎先生(現サウジアラビア在)にお世話をいただき、主将であった諫訪源君とともに京葉ガスへ進みました。現在も、宮下深緑監督のもと市原弘一先輩、石井茂生先輩、加瀬次郎先輩、大村博先輩、後輩では佐藤英彦君、田中美和君(現自営業)、庄瀬和君と続き、社会人として仕事に柔道励んでいます。誰のものでもない、君達自身の為できるだけの練習です。今後も条件の許すなかでして行くつもりです。諸先生、諸先輩の御指導をお願い申し上げます。

学生諸君!明大柔道部は今、正に君達の時代です。誰のものでもない、君達自身の為の、君達の時代です。形となって表われる果よりも大切なのは、柔道を通じて何をつか

むかです。そのつかんだものと丈夫な体、これがだけが財産です。

昭和六十年に向って、大いに頑張つて下さい。

OBとして期待しています。

五十二年度 現京葉ガス(株)

篠原一雄

第七回全日本学生柔道大会は昭和三十三年七月六日、例年のように東京体育館で開かれました。

明大の最後の望みは大将戦の神永四段にかかった。神永氏はその春痛めた右膝が悪化し、試合を再三中断しながら、辛くも古賀五段に判定勝ちを収めた。

一对の代表戦は再び神永・古賀の対決となつた。神永氏はピッコを引き、時々顔を半ヌッとしかめながらも、古賀氏の大外刈を返して一本勝。

私はじんとする涙をどうしても抑えることが出来なかつた。

大将代表戦中(神永ノ倒れるまでやる)と激励していた曾根康治監督は、チムをパンチに陥れた私に向かって「蘇る泣くな。男じゃないか」となぐさめてくれた。

ところが、大会終了後の同月末、葉山三郎先生に呼ばれ、「ブラジルに行つてもいい」との依頼を受けた。

私はこれまでに責任感の重圧を背負つたことはなかつた。

必死の努力、渾身の力を發揮した闘志のかいもなく、私は敗れた。足払いを掛けた

のがもづつて不利となり、時間切れ判定の結果である。

兩校七名ずつの対抗戦の均衡は初めて破れ

た、私のために。

もくじ

すべきか、学柔連は選考に頭を痛めたのだとも聞いた。

引き受けざるを得なかつた。私は苦しめた。あの決勝戦の重圧がまさまさと甦つて来た。不覚の一敗の自責が形をかえて、また胸をしめあげて来た。自輩たるもの、神永派遣を自明の理のように考えていたに違ひない。

「篠原には将来がある。俺はもう卒業だ。  
それに膝を治療せねばならぬ」

人望ある主将の説得だつた。部員を集め、静かに言つた。

「篠原には将来がある。俺はもう卒業だ。  
それに膝を治療せねばならぬ」

アーリジル行きの羽田空港。夏休みにもかかわらず、神永氏は部員たちをつれて講道館の小谷澄之先生（現十段）とともに、飛び立つに大きき手を振つてくれた。

アメリカには、戦後の学柔連OBがいろいろの仕事を持つて渡米住住している。また最近も、時の流れに乗つてか、若い柔道マンが希望満々やつて来る。彼らにも忘れられない柔道の時、がある。

私は二十七年前空港で、俺も神永さんのような人になりたゞよと思つた、あのとき

の心情を決して忘れないし、あの光景をかけがえのない鮮明さで常に思い出す。

三十四年度 ロサンゼルス在

## 鬼先輩の思い出

橋 本 一 郎

私が明大に入学したのは、昭和四十二年で止になつたこともありました。当時の柔道部は、監督に神永先生、一年先輩、篠巻先輩、安斎先生、一年先輩に須磨、小谷先輩、一年後輩に岩田、河原君、二年後輩には、上村川口、重松君と学生柔道界、日本柔道界を背負つたそううたる人達が活躍していた時代でした。私の同級生は、一年生当時八人で、他の学年にくらべると人数が少ない様でした。簡単に同級生を紹介いたしますと、秋田県出身で超しかしサイズの頭をもつた鉄仮面こと選手（昭和四十一年全日本選手権優勝）を、怪力國の安君（旧姓佐々木）、福岡県出身で、八女の山奥のターザンといわれた石橋君、広島県出身で名マネージャーといわれた食通？の



上村、代田、谷藤氏等と(当店にて)

西村君、長野県出身で若いときから頭のあたりに貴賤？のあつた平沢君、明治高校出身で学生時代に練習の合間に家業のアルバイトをして当時の百万円以上をためた石井君、愛知県出身で二年生途中で家庭の柔道部をやめたが、今でも家業のあん心を送つてくれる遠藤君、静岡県出身で一般学生から柔道部に入部して頑張りすぎ、一年生の夏休みに帰省つた時には両耳が大きく潰れ、お母さんがびつ

この時の背負い投げの写真を、さる高校が背負い投げの基本として道場にかざつてあるその代表的なフレーバーだと思います。言葉は悪いのですが、火事場の馬鹿力というのでしょうか、技をかけるときの集中力が、人並はすぐれているのだと思います。須磨先輩が松永選手を投げてから世界選手権でグランプリを投げて優勝するまでの試合ぶりは、私にとって忘れることがないものであります。この鬼の須磨先輩、最近は神経痛で苦労している様です。この文章を書きながら、フト思ふ時、当時稽古をつけていたいた先輩方、後輩諸君に現役選手はもう一人もなく、月日が経つのは早いものだとつくづく思うところです。

私は居酒屋を始めた約十年になりますが、近くに住んでおられる谷藤先輩、代田先輩、上村助監督、又柔道部の先輩、後輩の人達が私の店に来ました時には、昔話に花が咲き、仕事を忘れて話しこんてしまいまつ。ところがどうです。

この時のお客様で、今まで思つよう練習を発揮する選手がいる様ですが、須磨先輩はトップクラスと思われる若い先輩が一人いました。相撲界には無理偏にげんこつと言つ葉がありますが、まさにその言葉通りで、ゲンコツがよく頭に飛んできたものでした。この鬼先輩は、道場外ではそんなに恐くないのですが、道場に入つたとたんに急に鬼になりました。よくスマッシュが行われ、私は後輩は毎日が大変らしい？日々であります。この鬼先輩に関する思い出話はたくさんあるのですが、そのなかでも特に印象に残つていますのは、私が三年生の夏の愛媛、広島合宿中、日本人体重別選手権が世界選手権の予選会を兼ねてありました。この時この鬼先輩は篠巻先輩とともに出場したのですが、試合当

日の朝にお父様が亡くなりになるという悲劇にも負けず、当時負けるといけば膝をついで負けるぐらいしかなかつたといわれた松永選手（昭和四十一年全日本選手権優勝）を、見事な背負い投で一本勝ち。当時の記事を見た柔道新聞は「目前で信じられない事が起きた。あの受けの強い松永選手が背負い投げで宙に舞い、見事に一本をとられ……」と書いてあったことを記憶しています。そして拓大の西村選手（ミュンヘンオリンピック選手）を、軽く合せ一二蹴り、篠巻先輩と手権では、当時レスカトと並ぶ強豪のグラーネンを決勝でバーフェクトともいえる素晴らしを背負い投げで一本をとつて、優勝しました。

この時の背負い投げの写真を、さる高校が背負い投げの基本として道場にかざつてあるその代表的なフレーバーだと思います。言葉は悪いのですが、火事場の馬鹿力というのでしょうか、技をかけるときの集中力が、人並はすぐれているのだと思います。須磨先輩が松永選手を投げてから世界選手権でグランプリを投げて優勝するまでの試合ぶりは、私にとって忘れることがないものであります。この鬼の須磨先輩、最近は神経痛で苦労している様です。この文章を書きながら、フト思ふ時、当時稽古をつけていたいた先輩方、後輩諸君に現役選手はもう一人もなく、月日が経つのは早いものだとつくづく思うところです。

たのは、独身時代になぜか当店のすぐ近くに住んでいた、よく本誌に酒豪で登場するK君であります。本誌をお読みのOB会の皆様がた、近くでおかけの際は、K君の記録を破りにサナリとお立ち寄り下さい。学生諸君のご奮闘をお祈りいたします。

四十五年度 割烹 大洋



## 柔道と傷と人生

兼 定 正 明

皆さん、お  
久し振りです。  
すべて訓練で  
つてしまふと、  
人間とゆう奴  
は感動を失つ

てしまいます。

日々経験だけをたよりに生活をしているもの、時折これでいいのかな、と思うことがあります。世間では、初心に返れ、又原点に戻って今一度考え直せと言い、聞いてはいますが、時の流れと生活に追われて、反省し振り返るのも忘れてています。

そんな折、母校の競技部のニュースを聞き、

かわらず、職業を替えねばならぬことがあります。私は郷里で親の仕事を継ぐはずであります。同級生始め後輩にいき選手がいまして、同期生に、徳永・野田・塚本・久永・齊藤・永井・藤井・池田・立元・町山・長谷川君……一年下に、神永・徳山・比嘉・甲斐・富賀見君……二年下に、篠原君……三年下に、重松・山口・山本君……柔道仲間、先輩又後輩から投げたり、投げられたり、骨折、脱臼、打撲等の体験の結果怪我のコウミョウで柔道とはねつきの道を歩むこととなつた今を心から感謝している次第です。

私の業界にも柔道部の先輩後輩が、多数居られます。仲々むずかしい世界ではあります、が、業界の思い合いでOB仲間とも大いに交流して、きたいと思います。

現在、同期長谷川君の長男も、本年資格を取り私の所で修業中であります。

まことに、三二年度 新岐阜整骨院院長

特に柔道の活躍が新聞、テレビ、目に耳にしますと、大変刺激になり改めて学生気分にかかり、体中の血を逆流させ、身近な友に連絡、當時を語り、血肉をおどらせている次第です。学生時代の良かったことより、むしろ苦しく思ひ出がとくに花が咲めます。今にして思えば、学生時代運手と咲めました。それとも怪我ばかりしていた私。入部間もなく、一年生の五月頃、右足首をいためて、同郷、同級の長谷川博行君の背中に負われ、和琴校舎の近くの池添接骨院に運ばれました。それから出ることになり、体が怪我から離れることが無いといでまた、シキがありませんでした。いつも町道場のほねつきと学校の道場、黒い台合宿所との行き通生活でありました。

鶴沢君という豪傑がおりまして、(現在スベイ)国立大学教授、二人で「南米渡ろう」「よし、そろそろよう」ということになり、二人でスペイン語、ボルトガル語を習い始めるところが、海を渡つて向うで、柔道だけでは飯が食えない時があるからと、曾根先輩始

め各先輩に相談したところ、曾根先輩のオジイ曾根幸蔵先生という方がおられ、接骨と柔道場を開いておられました。その結果、接骨を習えるということになり、一人共二年間で旅費を都合することを約束、同時に郷里へ帰り、身边をととのえて上京し、改めて池添先生の所での学生生活が始まったわけあります。彼は陸送(トラックの運び屋)北から南へ、西から東へカセギに走り廻っていました。簡単に考え方入り込んだこの世界、これが何と大変も大変、大学時代ろくな勉強もしなかった私にとって、新しい言葉、医学用語を中心にして、実習してきましたが、苦労の連続であります。一方鶴沢君の方は数年後、単身で海を渡つて行きましたが、私は、日本に取り残されてしまいましたが、それから五年、池添先生のところでミッチャリというか、不充分ではありますでしたが、実習して帰省しました。岐阜の地に帰り開業して早や二十一年になります。あの時の状況が入れ違つていたら、現在スペインで鶴沢君がひょっとすると日本にいたかも知れない、替へいたら、人の生涯、どこでどう移り変わるか、神社などで計り知れません。最近、転職という言葉が良く聞かれます。必要不必要な

## 有限の生命

坂 本 行 弘

何か書くよ



る。その一つは、初めが良かつたのだから、次もきっとうまく行くぞと希望的・協力的な意味にむなれば、初めだけうまく行ったのかかもしれないよ、と皮肉的かつ非協力的な意味も知らない。

もう少しが何かに失敗をして、ふさごんで居る時など、クヨクヨするな、失敗は成功があつた。顧母だ、君にはまだやり直す時間が十分にあるではないか、人間終り良ければ全て良しとする友を勇気づける事の出来る明るさを持った含蓄のある言葉ではないか。うか。

今日は朝から雨が降っているが、天気予報

では、この雨も午前中だけで、昼からは晴れるとの事である。この状況を私の好きな言葉で言い言葉は、絶り良ければ全て良し、となる私はこの言葉、絶り良ければ全て良し、と持った意味が好きなのである。ちなみに私は、こんな時にこの言葉を使う。が何かをまいった事を人に自慢している時などに、初めてよければ、まずは良し、と使うのである。私はこの言葉、絶り良ければ全て良し、と持った意味が好きなのである。ちなみに私は、こんな時にこの言葉を使う。が何かをまいった事を人に自慢している時などに、話しがたどり切っても、決して話しへとはいわない。むしろこの様な話し方のほうが人の心をとらえて感動させるものである。

言葉には知つていて得をする言葉がある。

その一例として、あなたがグレープで酒を飲んでいると仮定する。その場に居ない友人の事が話題になった。あなたはその彼との間に、たまたま利害の衝突する問題をかかえていたので、酒の勢いも手伝って彼の事を口汚なく罵った。あなたが溜飲を下げたであろうこの事が後で彼の耳に入ったら喧嘩にならぬはずがない。又喧嘩にならないまでも、友情に大きな溝が出来る事受けあいである。併しこうした時に、喧嘩にもならず、友情にも溝が出来ず、あなたの気持もスッキリ出来る言葉がある。それは、会話を後に「私は悪口は言つたけれど、彼が好きなのだ」「…でもいい人間の一言を付け加えることである。簡単な言葉であるが、人間の持つ心理についての言葉なのである。

この様に、言葉使いを活用して、いざこざの無い楽しい人生を送りたいものである。

次に、私の経験から得た一つの認識を自身の反省もこめて書かせて頂く。

物事には必ず二つの面がある。それは、紙や表裏がある様なものである。物が動くといふ事は、一方から離れて、その反対の方に向に近づくという事である。この遠離と接近との両面を持つのが動くという事の分析哲学

である。しかる人は、動く、動かすという時、その一方だけを意識しているものである。

例えば、自宅から学校に出かけるとして、学校に近づく事ばかりを考えているが、自宅が住宅がまだん遠ざかってある事はある

事ではあります。それが、自宅から学校に近づいていくことになるのであるが誰もその様な事を考えてはいない。子供の頃は正月が来るのが楽しみで、待ちどおしいものであった。四月になれば、何年生になるのだと、上級生になる事ばかり考え、中学生になれば、早く高校生に、大学生に、と心待ちと競争をして先を競い、金持になりたい、億くなりたいと限らない野望を持つて、浮世の荒波にもまれて居るうちに月日はどんどん経過していくのである。

ふと我にかえって、顧ると既に人生の半ばを過ぎてしまっているという事になる。こんな悲觀的なことを書くと、学生諸君の持つ夢を打ち壊すことになるかも知れないが、それでは私の本意ではない。敢えてこうした問題は私のものである。学生諸君に、有限の生命を的確に認識してもらい、あなたの将来を、醉生夢死に陥らぬよう、心を運んで貰いたい。

私は彼がもし他の道を選んでいたとしても成功していたであろうと思う。

学生諸君、どうか、このプロゴルファーの様に現在を大切にして下さい。目の前のこと真剣にとりくみ、前進又前進しても振り返る余裕を忘れずに過すことである。

今、若達が大学で学び、道場で汗を流し刻苦研鑽している今の時間は二度と帰っては来ない。併し毎日毎日を刻苦研鑽した現在を積み重ねて来たものは、諸君達の永遠の財産となつて如何なる難事に遭遇しようとも必ず突破できる礎になるものであらう。

大きな目的を持つていう事ほど大切な人生の道はないと思う。

「終りよければ、全て良し」この明るい言葉を信じて前進して欲しい。

三三年度

である。かかる人は、動く、動かすという時、その一方だけを意識しているものである。

夢死に終らせたくないからに外ならないのである。

私は現在、体を悪くしてもう柔道の練習は出来ないが、時々ゴルフはする事がある。

四年前の事であるが、今私はその時のことははっきりと記憶している。

それと同じく、人間が生れるべく、その時点から死に近づいていくことになるのであるが誰もその様な事を考えてはいない。子供の頃は正月が来るのが楽しみで、待ちどおしいものであった。四月になれば、何年生になるのだと、上級生になる事ばかり考え、中学生になれば、早く高校生に、大学生に、と心待ちと競争をして先を競い、金持になりたい、億くなりたいと限らない野望を持つて、浮世の荒波にもまれて居るうちに月日はどんどん経過していくのである。

ふと我にかえって、顧ると既に人生の半ばを過ぎてしまっているという事になる。こんな悲觀的なことを書くと、学生諸君の持つ夢を打ち壊すことになるかも知れないが、それでは私の本意ではない。敢えてこうした問題は私のものである。学生諸君に、有限の生命を的確に認識してもらい、あなたの将来を、醉生夢死に陥らぬよう、心を運んで貰いたい。

私は強烈な衝撃を覚えた事をござますのがやっとであった。彼は「ドライバーの飛距離が一打、二打が違いすぎるのです」とおもむろに言つたものである。「良い所に気付きましたね」だが私には何がよくなかったので、ラウンドを終えて、食堂でビールを飲むながらその事を尋ねてみた。

彼は私の顔をシッとみつめていたが、それをおもむろに言つたものである。「良い所に気付きましたね」だが私には何がよくなかったのかサッパリ判らないので、笑顔をつくって思案し出します。

私は強烈な衝撃を覚えた事をござますのがやっとであった。彼は「ドライバーの飛距離が一打、二打が違いすぎるのです」とおもむろに言つたものである。「良い所に気付きましたね」だが私には何がよくなかったのかサッパリ判らないので、笑顔をつくって思案し出します。

私は強烈な衝撃を覚えた事をござますのがやっとであった。彼は「ドライバーの飛距離が一打、二打が違いすぎるのです」とおもむろに言つたものである。「良い所に気付きましたね」だが私には何がよくなかったのかサッパリ判らないので、笑顔をつくって思案し出します。

私は強烈な衝撃を覚えた事をござますのがやっとであった。彼は「ドライバーの飛距離が一打、二打が違いすぎるのです」とおもむろに言つたものである。「良い所に気付きましたね」だが私には何がよくなかったのかサッパリ判らないので、笑顔をつくって思案し出します。

## 輸出入・国内取引 鉄鉱石・その他鉄鋼原材料の輸入及び 鉄鋼製品の輸出

### 東南貿易株式会社

社長 根本 静夫

千代田区大手町2-6-2 日本ビル6階  
TEL (279) 2771-5

各支店出張所 愛知県 東海店 東海園1-1-1  
名古屋製鉄西日本セメント TEL 0560 5188  
福岡出張所 福岡県 福岡市中央区 1番  
八幡製鉄本社ビル TEL 03(5571) 1111  
北九州出張所 福岡県 福岡市中央区 1番  
八幡製鉄本社ビル TEL 03(5571) 1111  
大分出張所 大分県 大分市 大分駅前ビル4F  
TEL 093 203 2038  
広島出張所 広島県 広島市 広島区 正門通り4-3-3  
TEL 027 360 1669  
大阪営業室 大阪市 西区 江戸堀1-1-1  
TEL 06(441) 1296-7



KYOHO TSUSHO KAISHA, LTD.  
取締役社長 松田 滋夫

本社 東京都千代田区神田須田町1-23-2  
電話 (255) 8151  
電報 KYHOTORG TOKYO

# 道場往來

浦島太郎



今秋海外からめずらしいOBが二人、ヒヨコリ道場に顔を見せ、姿先生をはじめ、友人達をおどろかせた。

一人はレバノンからの富賀見正典氏（三三年度）。もう一人はブラジルからの平島征也氏（三五年度）である。富賀見氏は三六年渡欧し、三年間フランスのナショナルコチを務めたが、その技術は当時のヨーロッパ道道に少なからぬ影響をえたといふ。その後、その頃はまだ平和で中東のパリ等といわれていたレバノンのハイムートへ移り、道場経営（国家コーチ兼任）にあつた。中東戦争激化のさ中、音信がとだえ、どうしているのだろうと同期の者達が心配していた矢先であった。

平島氏は富賀見氏より約一ヶ月遅れの九月末、こちらは三年ぶりの帰国であった。富賀見氏の方は十何年か前、短期の帰國をした



姿先生と同期の鳴海、平島

当時業師の名が高かった富賀見氏も今はふと過ぎて、大外刈一回倒であつたが、右手の釣りと深いふみ込みは昔のままである。少し腰をいためているといなながらも、現役と

地では今も柔道と関わりを持っており、久旱の明大道場にもかかわらず臆することなく稽古に着がえたのはさすがであった。学生

ことがあつたが、平島氏は三七年の移住船で横浜を離れて以来の日本である。本年四八才と四六才と中年の域にある兩人だが、現

在地では今も柔道と関わりを持っており、久旱の明大道場にもかかわらず臆することなく稽古に着がえたのはさすがであった。学生

が自分の年に気がついたのだろう

富賀見氏から二週間遅れて道場に顔を出した。この日は、これもめずらしく三年度の作田氏が道場に現われ、こちらも元気よく姿

一本やうう」といわれ緊張の面持でお願いしていただが、どうせ五、六本で「まいりました」になるだろうと見ていたが、十数分続いていた。この日は、これもめずらしく三年度の作田氏が道場に現われ、こちらも元気よく姿

一本やうう」といわれ緊張の面持でお願いしていただが、どうせ五、六本で「まいりました」になるだろうと見ていたが、十数分続いていた。この日は、これもめずらしく三年度の作田氏が道場に現われ、こちらも元気よく姿

受身が相当こたえるらしく、先生が寝技に入られた機会をのがさなかつたのはさすがであった。

このたびの富賀見氏の帰国は、戦時下のレバノンの現況を知らせる写真展開催のためであり、緒に来日した主催者の神父さんと三ヶ月講道館の宿舎に滞在。青山の画廊で開かれたこの催しは新聞や雑誌で紹介されたので覚えている人もいるだろう。

平島氏は三年前、再び日本の土はふま

いと決心して日本を発つたそうだ。しかし、父親の病重し、の報せをうけ、はからずも今度の帰国になつたという。二三年ぶりながら彼の場合は日常に日系人社会があるので言動に浦島太郎のファンキは感じられないのだがここ数年、日本人にほとんど会つたことがないという。富賀見氏には初めのうち、我々と話すよりレバノン人の神父さんとフランス語でやつていて方が楽という感じであった。

二人の浦島さんは、そろそろ日本の姿貌ぶりにおどろいていたが、特に日本人の生活意識というか、ものの考え方の変り様が気になつたらしい。考えさせられる事である。二人の浦島さんは、その大変だったらしいが國際交流の実行をした平島氏は、秋晴の十月、相前後して成田を発つていた。

アディオス・アミゴ・アデュー・モナミ！

頑張れ朝飛！

冒頭のグラビアで、世界学生選手権大会に出場する朝飛大（四年）と長谷川敦（二年）の笑顔が出ている。この大会に明治勢が出るの、四回大会（ベルギー）の原、丸谷以来

である。世界学生大会は、六六年にチェコの布拉ハで第一回が開催され、以降毎年に行

なわち、二年間の中断が二度あり、今回のは八年で二回目である。今回のは八回大会であるが、明大は一回から四回まで代表

メンバーから欠けたことがないばかりではなく、出場の全員が金メダルを持って帰つて来た。

二、三位なしのバーフェクトである。すなわち、一回大会（չԵԿ）、無差別級、篠巻。

二回大会（ボルトガル）、無差別級、須磨。三回大会（ボーランド）・五五kg超級、上村。四回大会（ベルギー）・八五kg以下級、原、無差別級、丸谷。ということである。それが五回大会を壇に優勝どころか選手にも選ばれなくなつてしまつた。

リオデジャネイロで行われた第六回大会でのエピソードであるが、その時期、社用で現地にいた編集部の小林氏が、応援のためミニスコの奥から帰るばる出て来たOBの平島氏

（七五年に移住）とつれつて空港に選手団を迎えたが、下りに来たのはその大學督

かりにがつくり。つた一人の明治勢は監督の神永氏。外国で同期に会えるのだから嬉しさには違ないがこれは又別のこと、三人

で実際に上のがらぬ酒をのんだそうだ。しかし一番淋しかつたのは当の神永氏であった

冒頭のグラビアで、世界学生選手権大会に出場する朝飛大（四年）と長谷川敦（二年）の笑顔が出ている。この大会に明治勢が出るの、四回大会（ベルギー）の原、丸谷以来

である。その努力にまつて父速夫氏を越える日

もそう遠くないものと信じている。今回の大会出場は、そのスタートであろう。

## ケガ

篠巻監督のコメントに部員の怪我対策があつたが、大会をひかえて選手候補がバタバタとりタイヤーしていった今年の状況を見ていると「おはらいでも」と眞面目に考えてしまう。久々に厚い選手層で戦えると計算しているのである。指導陣の胸中は察するに余りある。檀上、又吉、野寄、渡辺、長谷川、となれば怪我人だけで馬力のあるチームが出来上がる。監督がいっている様に現場での怪我の原因は不可効率に近いものの様だから、またある。指導陣の胸中は察するに余りある。

アマチュアスポーツの意義は勝つことだけにあるものではないことはうまでない。

しかし、あえて乱暴な言い方をさせてもらう

と、これはあくまでも今までであって、明

太柔道部の我々にとっての本音は、学生選手

権大会で勝つことであり、これが最大の目標

である。とすれば、一年間の集大成を發揮

する大会前の練習で怪我に倒れてしまつて

は!こんな情ないことがあるだろうか、そ

れまで本人達の流した汗も、涙も、公私の生活を犠牲にして頑張っている指導陣の努力もO.B達の声援も、まったく空しいものとなってしまう。

しかし、誰も好んでケガをしている訳ではない。監督がこれらの怪我の原因を現場の状況の問題だけ見ず、部員の日常生活まで掘り下げて考えて見たい、としているのは道場での集中力を問題にしているからではあるまいか。あえて、油断があるとはいわないが、

学生諸君は、部員としての目的意識をたえず、生活の頂点にまで、緊張した日常を送つて頂きたい。かつて道場の広さが七〇畳しかなかつた時代や、多くの名古屋で道場が溢れていた時代でも、大会に向いて主力の半分が欠けたなどということは一度もなかつた。さて、又詮説になってしまった。このへんでグ、チ留とする。

## もう一つの観戦記

三三年度の同期会は「三三会」と称し、神永主将、小川マネージャーを中心今でも熱々やっている。彼等は初老ともいえる四八からこそいいんだ」諸般の状況から見て三本目は後日のおあづけ、息の上の上った兩人はどちらも現存なし、めでたし、めでたしであつた。坂本「オレも早く糖尿病をなさなくていいだ」作田「学生のルールでやるからこそいいんだ」

物語は、駿河台下のオデン屋、第一道場、新橋

鳥森、と延々ハシゴが続いたが、酒になつた

ところも、両者、エールの交換が始まつた

に顔を出し周囲の目を気にせず堂々と稽古着をつけている。中年エイジではこの三三会が一番道場に出向く様だ。

先日も最近本社の要職に米転した作田順二が久しぶりに道場にやって来て、恐る恐る

姿先生に稽古を願い出た。ところが終つてみると、だいぶ軽んだわりには息が乱れていない。

これに気をよくした彼、続いて軽いクラスの学生をつかまえた。この学生の上手? 稽古に一層気分をよくし、自信? も少しよみがえて来たらしい。

といつて、そう現役と稽古をする訳にはいけない。その辺は心得ていて、その気にならないケガでもしたと切角で宋転がフイになる。

しかし、やれるという気分をおさえることが出来ず、考えた末、後日同期生を招集することにした。神永はまだまだ強らしい。宮下は諭訪や加瀬の師匠だから相当やるだろう。

結局、小川、坂本、小林敏、が電話で道場に呼ばれた。結局、この日の体調が一番よい小川が相手という事になった。

その日も姿先生に稽古をしてもらい、一年生と寝技で汗を流して作田を見て、小川は何度、たじろいだ様子であったが、そこには春日部柔道会副会長「やりましょう」という

小川が相手という事になった。

その日も姿先生に稽古をしてもらい、一年

生と寝技で汗を流して作田を見て、小川

は何度、たじろいだ様子であったが、そこには春日部柔道会副会長「やりましょう」という

## 明柔会ゴルフコンペ

4月30日

久 カントリー(埼玉県)

締 切: 3月31日

受付先: 03-279-2771

東南貿易 代田正俊

全国会員ふるって御参加を!

## 企画力、技術の生かされた印刷

- PR関係美術印刷
- 事務用印刷、ビジネスフォーム印刷
- 出版関係印刷
- ポリエチレン・ポリプロピレン各種印刷
- 製袋・加工、各種成型、
- シール印刷加工

 有限公司 渡辺欣勝堂  
代表取締役 渡辺欣嗣

神田営業所 〒101 東京都千代田区・麹町二丁目1番10号  
渡辺ビル4F 電話 (03) 262-4635  
本社工場 〒115 東京都北区浮間3丁目15番28号  
電話 (03) 967-9317

業 品 食 食 給 会 社 株 式 會

代表取締役 谷藤義明

〒173 板橋区大谷口上町44-11  
TEL 03-956-9615(代)  
自宅 〒175 板橋区高島平3-11-2-1004  
TEL 03-975-6604

 マルキガス株式会社  
代表取締役 川島 功(34年度)

〒336 埼玉県浦和市道祖土3-15-8  
TEL 0488-86-2001(代)

## 渡辺欣嗣の背負投

(文) 渡辺政雄

編集の小林君から、欣嗣先輩のいい写真が見つかったので、記事を書いて欲しいとの連絡があった。

左の背負投げで、松下(日大)選手を投げている写真との事。電話を聞きながら、私の脳裡は既に三十年前に遡って、あの時の試合の場を思い浮べていた。

あの時の試合とは、昭和十九年、全日本学生柔道優勝大会、日大との決勝戦である。

さすがの松下もキリキリ舞い

この写真は、小学生の眼鏡で、物の見事に決った必殺の背負投げであり、

新聞の見出し風に表現するならば

渡辺欣選手の必殺の背負に

舞う。どちらうか?

当時、松下選手は新入生ながら、その実力は高く評価され、天理の古賀と共に、我々も一目おいていた。無敗の明大柔道部にとっても、彼は脅威の存在であり、新入生に不覚を

勢の三校が強かつたということになる。個人的に目に付いた選手をあけろと、優秀五人のほか松下、加部(日大)、藤田(早大)、今田、黒川(教大)、坂田(関大)長(西南大)、天満(北大)、杉尾(今村)天理など、彼らは体もありわざも巧くもつと強くなる選手である。

(伊集院浩)

【明大一回大決勝戦】渡辺(欣) 背負投げに松下をぼるる



第3回全日本学生柔道優勝大会決勝戦  
29年7月4日 東京体育馆

今村三段(天理) 渡辺欣四段(明)

山尾ら優秀選手に  
なお店出場選手のうち山尾五段(明)

渡辺政四段(明) 野口三段(九)

の五名が優秀選手に選ばれた。

とってもはと、胸中おだやかでは無かった。松下と対戦した欣嗣の胸中も、全く同じ気持ちだったに違いない。

然し、その不安は、欣嗣が試合場に上了瞬間吹きこんだ。審判の「始め」の声を聞くや、闇濁々、左やや全身に構えて、松下を下から睨みつけ、二度までも、宙に舞わせた。松下と対戦したことには、これまで一度も高め、我々も大いに面目を施した大変貴重な写真である事をお知らせしておきたい。

つかんでは投げ、ちぎっては投げた跳腰

私は、彼の背負投もすることながら、これが欣嗣の技と言えるのは、引手を持った瞬間、相手の懷に飛び込んで、左跳巻込みこそ第一技と考える(決まり技は、内股)になっているが、技の仕掛けは、跳腰。これは彼

独特の技で、誰も真似出来ない特技ではないだろうか? 昭和二十七年学生東西対抗に於いて、六年抜きの記録は、今でも破られていないが、その時の決まり技は、五人までが跳巻込みであったと記憶する。

彼の代表技を紹介するが、いずれも、見事な切れ味だった。その切れ味は、稽古によつて研かれた事を付記しておきたい。

小錦は、相撲は「喧嘩」と言つたが、正に彼の練習は、それ以上だった。常に殺氣を感じ、やや左変形に構えて相手を睨みつける形から睨みつけ、一度までも、宙に舞わせた。松下と対戦したことには、これまで一度も高め、我々も大いに面目を施した大変貴重な写真である事をお知らせしておきたい。

私は、彼の背負投もすることながら、これが欣嗣の技と言えるのは、引手を持った瞬間、相手の懷に飛び込んで、左跳巻込みこそ第一技と考える(決まり技は、内股)になっているが、技の仕掛けは、跳腰。これは彼が女性にもてなかった。それが故に気弱があつたのも知れない。今の柔軟な欣嗣の顔から、稽古時の、又、試合時のあの形相は誰もが相像し得なくなつた。そんな昔話になってしまった。

日本鋼管㈱二十九年度



4



5



6

(昭14卒)14将……時〔昭和12年5月28日〕  
場所〔大連〕○この試合は姿副将(学生軍)  
が加藤大将(満洲軍)に勝ち、学生連合軍  
の勝利となった。  
③昭和12年6月明大柔道部九州遠征記念……  
右から石橋(安倉敏)(昭13卒)／姿節雄(昭  
16卒)／渡辺平治(昭16卒)／宮島童治(昭15  
卒)……時〔昭和12年6月23日〕場所〔別府  
温泉〕

④4年生部員送別会……昭和三三年一月〔三  
年生部員〕

⑤柔道部創設70周年記念パーティ会場にて……  
吉井

⑥昭和28年度、中國路遠征時(尾道旅館)……  
前列右から上藤(小林(乙)／姿先生■その  
後右から呂崎(末木)■立っているのが伊藤

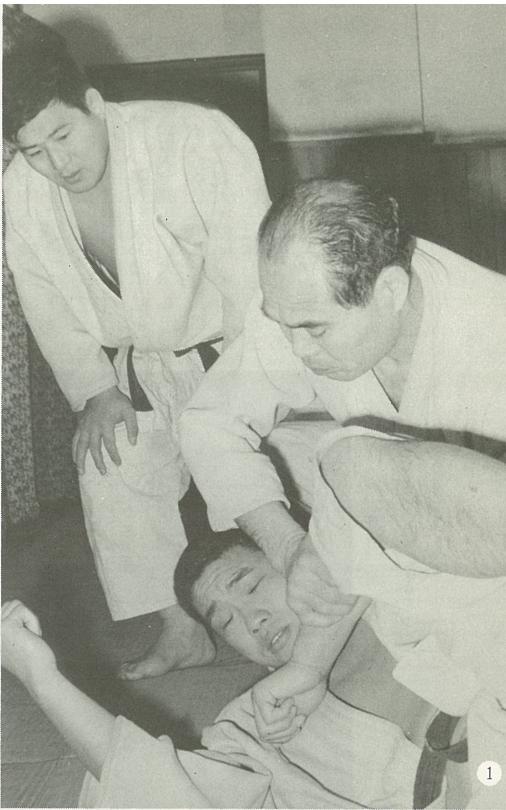


3



2

# 思い出の一枚



①東京オリンピック(昭和39年10月20～23日)を前に固  
技の指導……姿  
節雄(昭和16年卒)／神永昭夫(昭  
和33年卒)／植草(積田)勝(昭和39年卒)……時〔昭  
和39年9月〕場所〔明大柔道場〕  
②第9回東京学生連合軍対満洲軍の定期戦における明  
柔会会員一同……1列目右から村山要(昭11卒)満洲  
軍4将／牧野政信(大10卒)審判／鵜田喜美雄(大12  
卒)／不詳■2列目大神恒文(昭13卒)マネージャー  
／斎藤栄次(昭13卒)12将／三塚彦夫(昭12卒)満洲軍  
13将■3列目岩崎郁男(昭13卒)7将／城戸勝守(昭  
15卒)9将／姿節雄(昭16卒)副将／荒川(松本)広司

1

# 昭和人名記

佐賀県  
長崎県

(文中敬称略)

## 佐賀県の巻

久米 勝



杉原 構

森田  
(旧田中次男)

人国記九州編が続いているが、今回は肥前賀、長崎の巻である。これまで登場した、福岡、熊本、鹿児島の三県は、明柔のいわば大農業地帯である。全國的に見てこれに匹敵する実りの県といえ、百名に余る江戸っ子OBを有する東京。世界チャンピオン篠巻を生み、関、積田、小谷等レギュラー獲得率の高い千葉。神永昭、以来東北高校出身を中心いつの時代も頑張っている宮城。昔盈進、今、崇徳と戦前から多士済々を輩出し、姿师范の国でもある広島といふところである。本題に入つて、佐賀県からは戦後十二名(現役四名を含む)が明柔の門をくぐっている。この人国記は戦後中心版であるとしていつも文中でこことわっているのだが、佐賀県を語る時、戦前 戦中卒の杉町仁市と久米勝の紹介から入らない訳にはいかない。

学は、小鷹ながら現役時は立ってよし裏てよしのファイターで鳴らした。しかし先年、病氣を得て、惜まながら人生を去った。佐賀人らしい朴訥で暖かい彼の人となりについては会報(82-)の追悼文集で五島光が語っている。久米は戦後諸事困難な時代にいち早く明柔道俱楽部を発足させた先輩グループの中心メンバーで(この俱楽部結成時の状況を今号の文集で宮崎博通がくわしくのべている)部正式発足時から助監督(兼明治高校師範)として、又、白雲寮會監をして病にたおれるまで全力を明柔委員会のために尽した。明柔の歴史を語る時、佐賀県出身のこの両氏の名を欠かすことは出来ない。

戦後はまず、川副茂(昭和三十三年度 竜谷高)と新谷茂(昭和三十三年度 竜谷高)の二人が佐賀郡東玉賀町と佐賀市から出ていく。川副は長崎県警の捜査の第一線で、新谷は佐賀市の中堅職員として現在活躍中。二、

三十四年度の田中次男(現姓 森田)佐賀市出身。右の背負投得意



武雄市出身の久米(昭和十八年度 武雄中

とし、やや地味な柔道であつたが、地力は相当なものがあった。法務官、佐賀市在住。伝統的に佐賀県は軍人と官吏の育つところといわれている。現役四年の古賀英之は卒業後、佐賀県警への奉職がきまっているといふ。そうして見るとこの伝統は明柔OBの間にも生きているということか。

杉町幹人(昭和三十五年度 佐賀高)と、杉原構(昭和三十七年度 竜谷高)は数少ない東京在住のOBである。杉町は佐賀市出身、杉町仁市の息子、才なくした体型から跳球をよくした。現在資材機社員。その内股のキレは試合の成績以上の評価があつた。杉原産業㈱社長。幹事としてOB会活動にも積極的に参加している。彼のち小城からは、現役三年生の古賀英之(小城高)、一年生の早田豊(小城高)が出て奮闘中。

姿寮の寮生だった池田一郎(佐賀高)佐賀市は佐賀の家系の出で、柔道部出身らしく生真面目な部員であった。佐賀東高出身の安田銀台(昭和四十九年度 佐賀市)は佐賀市内で焼肉レストラン「順香園」を、その名の様に順調に経営している。

③ 年代が前後するが、右内股、大外の石橋広

一（昭和四十一年度）は福岡県との境、三養基郡の生れだが、高校は久留米商高に進んだ。現在、地元の事業経営にあたっている。

前出の古賀（智）（佐賀商高・佐賀市）は佐

賀県、久々の材として注目されている。タイトルなしの卒業となってしまったが、恵まれた体質と柔道をはじめて未だ五年にしかならないという若さに大きな可能性を感じる。来春は是非、明柔佐賀の選手権大会出場第一号になつてもらいたい。

最後に発場する飛松義樹（一年生・鳥栖市世田ヶ谷高）も又注目の人で、五十八年度インターハイ71キロ級優勝、金鶯旗大會優勝団体のキャリアを持つ。すでに学生体重別大会等で素質の片鱗を見せており、今後の精進如何ではソウル五輪出場も夢ではない。

さて、佐賀平野には楠が多い。佐賀市など



吉田尚男

木村（木村）は、香椎中（福岡）、明大中野高（東京）と柔道名門校に学んだ。上京にあたって、大学卒業までは家に帰らずと決心し、その通り高校、大学を通して八年間も帰郷しなかつた。どういう頑張り屋。吉田の生家は長崎で老舗の料理店なのだが、古くからいる店の人達が八年ぶりに帰った彼を客と間違えたというエピソードがある。卒業後、すぐ料理勉強のためフランスに渡り、現在レストランに住み込んで修業中。フランス各地の一般庶民が日常に食べている料理を現地で食べる傾段で日本に紹介したい、というのが彼の念願である。柔道は、香椎中（福岡）、明大中野高（東京）と柔道名門校に学んだ。上京にあたって、大学卒業までは家に帰らずと決心し、その通り高校、大学を通して八年間も帰郷しなかつた。どういう頑張り屋。吉田の生家は長崎で老舗の料理店なのだが、古くからいる店の人達が八年ぶりに帰った彼を客と間違えたというエピソードがある。卒業後、すぐ料理勉強のためフランスに渡り、現在レストランに住み込んで修業中。フランス各地の一般庶民が日常に食べている料理を現地で食べる傾段で日本に紹介したい、というのが彼の念願である。柔道は、香椎中（福岡）、明大中野高（東京）と柔道名門校に学んだ。上京にあたって、大学卒業までは家に帰らずと決心し、その通り高校、大学を通して八年間も帰郷しなかつた。どういう頑張り屋。吉田の生家は長崎で老舗の料理店なのだが、古くからいる店の人達が八年ぶりに帰った彼を客と間違えたとい

は町そのものが楠でおおわれているといつてもよく、緑の葉の一枚一枚が陽光に映える。南の地にいつ感じて受けれる。この明るさに、くらべると我が明柔佐賀の諸兄は概してオーソドックスで番味な柔道をする人が多い。鳥栖の宿町中学からすぐ東京の世田ヶ谷高校に進んだ飛松の柔道は少し違う様だが、三十二年の川副から五十九年入学の早田までの間、実力的に一かどの者は現われているのだが、いわゆる個性的でびしりタイプは見あたらぬ。

地味とか、オーソドックスとかいう語の意味は、基本的でしつかりしている様をいってるのであって、一つの評価をいあらわしている。しかしこの言葉は保守性の弊や煥発に欠けるものを上品にヤユする表現でもある。オーソドックスなる言葉の講評を最後に人国記（佐賀編）をとどめるが、「律氣で生真面目」という佐賀モノ質が我々の柔道にまで現われている様で面白い。

### 長崎県の巻

尚武の北九州にあつて、歴史的に経済、文化の拠点である長崎は、伝統的に武より文へ

吉田尚生は長崎市の生れだが、中学、高校



吉田尚男

吉田基行は、今、佐世保市で整骨院をやっている。彼はこの技術修得にあたって、通常の勉強だけではなく足りらず、西独に留学した。この分野での日本の技術は高く、関係だけのためなら、あとは留学する必要はない。そのため、このあたりの行動が長崎人の面目をうなづかせる。柔道は瘦身からの左技。酒技もよかつたという。佐世保市出身（佐世保高）。

吉田尚生は長崎市の生れだが、中学、高校

るいは完全に組み勝てないまでも、互いにガブリの型から放つ木村の右腕腰にケチをつけられるものはない。問題は、カク乱戦術対策である。それには、やはりより練習を重ねて確固たる自信を持つ事はなく、小手先の作戦で解決することではない。来春、福岡県警に入ることになっているが、佐賀の古賀どちらが先に九州を代表して選手権に出てくるか楽しみである。

### 長崎の巻終り

人物を語る時、彼の出身地について通説になつてゐる風土的概念から帰納することは、滑稽な事である。例えば彼は鹿児島県人である。だから西郷隆盛のごとく豪放磊落である。などという通俗概念といふ便利な大網を

☆次号 大分、宮崎、沖縄  
△編集部

いう風氣になる。人國記掲載の企画にあつて論議されたのもこの点であった。

しかししながら風土と

# わが母校 東北高校

飛島義絃

「三百余年、名君のかおりつたえる 青葉城……」で始まる校歌で知られる、東北高校も明治十七年創立以来一萬五千余名の卒業生を送り出し、今年で丁度創立九十周年を迎える。

現在、二四〇〇名（男子校）の在校生が、普通科、商業科に分れて学んでいる。この古い歴史の中でも運動部の活躍はめざましく、柔道部、野球部、自転車部、ヨット部、バレー部、ラグビー部、サッカーチーム、陸上部等はインターハイの常連で全国レベルに達している。特に野球部の甲子園出場を春夏併せて二十回に及び、我が柔道部と共に「東北高校」の名を大いに高めている。

又、全国制覇をどちらが早くするかを競っている。

この歴史と実績のある柔道部の創部は明治三十八年と約八十年近い伝統を誇る。



五十嵐初代校長

ついている。当時師範には故二般久藏先生をお迎えし、その御指導を賜ったと聞き及んでいる。

戦前の東北中、戦後の東北高と通じて、柔道部の戦歴は多くのインターハイ、国体、高校選手権の県代表として出場最多記録を更新中である。又、個人的にも戦前の宮川周蔵（五十九年二月故人）八段、佐藤儀一郎八段（現在東北六県柔道連盟会長）と全国大会出場者を輩出、戦後は神永昭夫（昭和三十五年、八、九年度全日本選手権優勝者）、佐藤幸二（昭和四十二年度第三位）、安斎泰人（昭和四十五年度第三位）、沢郁夫の諸氏が、全日本選手権の出場を果しているばかりではなく、優勝者、三位入賞者、二名も同一高校から輩出しているのは東北高校だけではないかと関係OB連は自信している次第である（その他二名全日本に出場した者がおりますが明治以外ですので省略します）。戦後の東北高校から明大への道しるべは、神永昭夫先輩がつくられそれ以後十名の明柔会員に及んでいます。

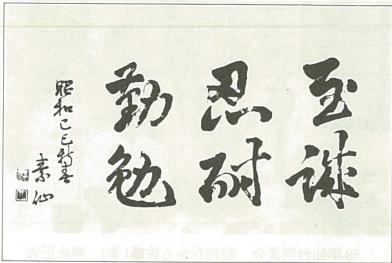
林道夫（旧武田）（昭四年度）現在八十歳。御隠居され悠々自適の生活を送られている。

## 会員紹介

林道夫（旧武田）（昭四年度）現在八十歳。御隠居され悠々自適の生活を送られている。

佐藤幸二（昭二十八年度）旭化成→宮城県警教養課勤務（170センチ100キロ）未だ県の機動隊の現役と稽古をしてもひけをとらないのは体型が170センチの100キロ足が短く胴が長い典型的な柔道型の為、長もちしているのでは？ 現役時代の柔道はねばっこだったが今でも柔道の話になると二〇三時間は平気、体の割に小さい声で話して続ける。

飛島義絃（昭三十九年度）東洋醸造仙台支店勤務（171センチ86キロ）学生時代78キロの体重が卒業と同時に増え初め最高時96キロ、それと共に血圧も上昇最高時110～130まで行く、医者にこのままで命の補償はしないとおどかされ四年前より降圧剤を服用、漸く正常に近くなる95～105mmHgで過ごる深酒するところどころの忘れをする様になり思へば、ラウンド80～83位がアーバイク、力の抜けた時は70台で廻る。毎日曜日小学生20名位に柔道の心を教えて



昭和二年  
正月  
記念

校訓  
至誠  
勵勵

宮川周蔵（昭十三年度）

当時の明大主将を務められた。戦後の東北高校柔道部を昭和四十年まで指導しておられた。残念なことに昭和五十九年二月、八段在位で御逝去された。

天野新助（昭十六年度）宮城県警を勇退され現在仙台市職員

神永昭夫（昭三十三年度）新日本製鉄本社勤務

神永正夫（昭三十六年度）東洋醸造仙台支店勤務

台支店勤務（176センチ、108キロ）頭前部に秋風、こがらしがこたえる今日この頃ですが、このほかは食欲、酒量ともにまだ劣らず、ゴルフではドライブ～250メートル平均飛ばし、ラウンド80～83位がアーバイク、力の抜けた時は70台で廻る。毎日曜日小学生20名位に柔道の心を教えて

佐藤正武（昭三十七年度）三井建設仙台支店勤務（173センチ85キロ）白いものがめつきり多くなり、当世風に言うなら「身の内」である。白いものがめつきり多くなり、当世風に言うなら「身の内」である。

安斎泰人（昭四十三年度）クラレ→宮城県警→自営（181センチ110キロ）現在仙台市の隣岩沼市で鮭魚寿司、和洋レバースランを経営、一生涯懸命かせいでの現役時代全日本で三位になつた次の年中量級の藤猪に不覚をとり、まだまだ

余力があったのに、あっさり県警も第一線も退りぞいて家業を継いだ熱血漢である。

佐藤康夫(昭四十四年度) 自営 (162セントチ75キロ) 在学中は名マネージャーで知られ、現在在業の溶接の仕事をしている。声の良さは有線向け(TV向けではない) 村田節や演歌を歌わせたら右に出る者がない。まだ独身生活を謳歌している。

青木則雄(昭四十六年度) 三菱重工。

外注課勤務 (183セントチ)

100キロ) 卒業以来会

う機会がなかったが

電話で近況報告、一

男一女を授け元氣で

頑張っている由。

相沢郁夫(昭五十一

年) 宮城県警機動

隊 (183セントチ125キロ)

機動隊で現役選手、

全日本選手権出場を

も果したがまだまだ

精進し幸二先生を追

い抜く様努力を望む

熊谷雅之(昭五十八年

度) 東北高校教員

(173セントチ100キロ) 今

春明大卒業母校東



59年仙台明柔会 前列右から佐藤(幸), 神永正夫  
佐藤(正), 後列右から安斎, 熊谷, 早坂, 飛島

北高校で教鞭をとる。高校生と共に勉強に特訓中。高校生の兄貴分の存在一緒に稽古に汗を流している。早く明治で通用する後輩を育て明治へ送りこんでもらいたい。

以上 東北高校から明大へ進学し卒業した強者? 3達である。普段諸先輩には御無沙汰致しておりますので、この稿を

お借りしまして、我々の近況の一部をお知らせしました。

未筆ですが母校明大柔道部の日々の優勝を祈念致し筆をおかせていただきます。

尚 現役では、早坂久永(四年)、秀島豊(二年)、熊谷好昭(二年)が頑張っています。

△三九年年度東洋醸造㈱

## 各種ウエス 工業用クリーニング 安全用具一式

## (株)立花商店

代表取締役  
立花敏明  
(34年度卒)

〒720 広島県福山市港町2-77  
TEL 0849-23-0180

## 学苑会柔道部とともに三十年

監督 工藤 欣

欣

○星働き、夜学び、そして柔道修業

二部学生を中心として学苑会柔道部が正式に発足したのは、戦後の混亂期を未だ脱げ切

らない昭和二十八年頃だったと記憶しています。

す。当時は、殆どの部員が昼間仕事を持ち

二部で学ぶ学生で、発足当時は部員も少なく柔道の技術も優れていました。

本館地下道場での修行は、設備も不充分で、稽古時間にも恵まれなかったが、発足当時から部長をして頂いた葉山三郎先生の指導で、

「社会人としての教養を身につけた儀礼正し

い人間」を柔道の修行を通して造ることを目

標に一生懸命修行しました。これから約三十

年、部活動の環境も大きく変化したが当初の

目的は変わることなく、葉山三郎先生(きみ)後、神田和先生の御指導をお願いして今日まで明るい部活動を続けて居ります。

○江の島強歩行軍と草津宿

柔道の技術の向上もさる事ながら、精神面の修行も大切な部活動の目的と致しました。

実質的なクラブ活動を開始して間もなく昭和三十二年春、新生歓迎会の一環として江の島を参加させて合同合宿を行っています。

## ○体育会柔道部との交流

道場が小川町校舎五階に移ってから、設備も整い、沢山の先生方や先輩諸兄に御指導を頂く機会に恵まれました。特に勉強になったのは体育会柔道部の練習に参加させて頂いた合同練習でした。柔道を修行する者にとってより強い選手に学ぶ事は夢であり、一九六四年、東京オリンピック前に、仕事の都合で神永選手等が夜間に調整した時には、数多くの体育会柔道部OBや現役選手と一緒に学苑会柔道部も練習に参加しました。世界の一潮流手の練習を見た事ができた事は二部学生にとっては大変な勉強。その後学生が何よりも感激しておりました。柔道部は毎年、機会ある毎に御指導を頂きましたが、こうした交流がきっかけとなり、一部に学籍を置きながら、学苑会柔道部で練習する学生が多くおります。また、体育会柔道部の催物がある度に、学苑会のOBや学生も参加する様積極的に働きかけてくれる田中章雄先輩などの努力により体育会柔道部との交流を更に深める機会となっています。

## ○地方遠征と定期戦

柔道部も練習に参加しました。世界の一潮流手の練習を見た事ができた事は二部学生にとっては大変な勉強。その後学生が何よりも感激しておりました。柔道部は毎年、機会ある毎に御指導を頂きましたが、こうした交流がきっかけとなり、一部に学籍を置きながら、学苑会柔道部で練習する学生が多くおります。また、体育会柔道部の催物がある度に、学苑会のOBや学生も参加する様積極的に働きかけてくれる田中章雄先輩などの努力により体育会柔道部との交流を更に深める機会となっています。

（四十二年度）間組で課長で活躍する片岡清君（四十一年民）、更には駿糸会（学苑会柔道部OB会）会長であり和服の「紋章」を書いて同業の全国組織の理事長を任ずる後藤謙君（三十五年度）、「日展」に駿糸会を出展して通算八回も入選している山田朝彦君（四十一年度）などユニークな存在も居ります。その他各種の分野でそれぞれ、地味ながら、着実に美社会で活躍している学苑会柔道部の先輩が沢山居ります。おそらく、そうした人達は柔道の修業を通じて学んだ「道」を重じ、先輩を敬い、後輩を指導する、バランスのとれた社会人としての感覚と、理屈抜きに努力し鍛えた忍耐力が今日の支えになっています。確信致します。今日迄学苑会柔道部に対し御指導頂いた先生方体育柔道部の先輩諸兄に謹んでお礼申上げますと共に、同じ柔道の道を走る者として引き継ぎ御指導下さいます様お願ひ致します。未筆ながら学苑会柔道部紹介の機会を与えて頂きました、明柔、編集部に感謝致します。

学苑会柔道部が発足した当時は、二部学生を中心とした柔道大会が少なかったため、積極的に地方遠征や定期戦を行いました。部歴の浅い学苑会柔道部に対し、体育会柔道部の先輩の方が惜しげもなく協力して下さいました。初めての東北遠征では当时、年生だった篠原一雄、大橋武彦、渡辺邦造君等も参加して頂き東北柔道などとも試合が出来ました。故人となられた曾根康治先輩のお世話を、当時の富士製鐵室蘭とオール札幌との試合、同様須藤重男先輩のお世話を信州遠征に、山尾英二先輩には広島遠征の機会を送って頂きました。また日本大学工学部とは二回を超える定期戦を行いました。また比嘉良幸、大橋武彦、小田原徳一、金城義次らが在阪先輩の協力で故人となられた秋岡高先生が指導しておられた関西大学二部柔道部との定期戦、そして法政大学二部柔道部とは今年で二十回目の定期戦となりOB戦も含めた記念行事が予定されています。

## ○二部柔道部による全日本大会

そうした二部学生による地味なクラブ活動が周囲に認められ拓大、理科大、東洋大、東海大、工学院、国学院大、法大、日大等部内が開催されました。また最先端技術として注目されるエレクトロニクス産業界に独自の力で参入し会社を経営している

○実社会で頑張る学苑会柔道部OB  
初めての学苑会OBを実社会に送り出してから三十年が経過しました。現在では数多くの卒業生が実社会で活躍しています。企業を請けついで会社や商店を堅実に経営している名先輩西武に入社した佐藤捷治郎部長（三十九年主将）、長井利男部長（四十年主将）、両部長は、その確実な仕事振りが認められ、その後多くの体育会学苑会の柔道部の卒業生を同社に入社させ数多くの後輩が課長あるいは係長として活躍しております。また最先端技術として注目されるエレクトロニクス産業界に独自の力で参入し会社を経営している

の二部柔道部に神奈川県など近隣大学が参加して「東日本二部学生柔道大会」が組織されました。その後関西でも九州まで含めた同様の柔道大会が組織され、東西対抗などの大会を経て現在では「全日本二部学生柔道大会」が発展して今では「全日本二部学生柔道大会」で、学苑会柔道部は三年振り通算三回目の優勝となりました。過日、久し振りに優勝旗を道場に飾り神田和夫先生、OB、学生全員にて、当時の富士製鐵室蘭とオール札幌との試合、「優勝の歌」を歌い感激のひとときを過しました。

60年度 前期日程	
1月10日	寒建設古始め
2月10日	広畑合宿
3月20日	新入生集合
4月中旬	東京体重別大会
6月上旬	全日本体重別大会

黒潮踊る多彩な海景……  
ぜひ男鹿半島へ!!

男鹿グランドホテル  
代表取締役 鈴木 実



秋田県男鹿市北浦湯本字中里81  
TEL 0185-33-2151 代表

訂 正

前'84F号、六ページ随想

三題の文中に中心吸いとありますですが「中心帰一」の間違いで書いた。筆者松田氏にお詫びをするとともに訂正させて頂きました。

編集部

ご結婚のお慶びを申上げます

下瀬孝明君（五四年度）、八月一九日堀田誠氏・藤永弘氏両御夫妻の媒酌にて、松村京子さんと結婚。（秋市・本陣）尚、下瀬君は以後松村姓となる。

# わが青春の駿河台 (四)

汗こそ最良の教師



小宮良平

はじめに

再三にわたり本紙の原稿を依頼されながら、生来筆不精の上に度々の海外出張等で繁忙を極めていた時期でもあった為に断り続けてきたのだが、この春、姿君の昇段祝賀パーティで会報編集発行人の神田君に会ったところ、良い機会とばかりに幾人かの編集幹事に引き合われた。彼等に取り囲まれて、寄稿は先輩としての務めだとばかりに熱心に口説かれその熱意にほだされて、枯木も山のにぎいひならんの心境で遂にベンをとった次第です。

本紙が回数を重ねるにつれてページ数も増し順次内容も充実してきているのは、そんな裏方諸氏の熱意と努力の賜物であります。それぞれ勤めのある身でそのご苦労は並のも

のではあるまいに先ずもって謝意を表すると共に、今後益々のご尽力を期待したい。

私は昭和十六年、商学部を卒業。従つて今から四十数年前のことであるから記憶も定かではないが、おぼろ気な舞の思い出しながら筆を進めてみましょう。

昭和十六年、商学部を卒業。従つて今から四十数年前のことであるから記憶も定かではないが、おぼろ気な舞台に登場したころで景気も仲々の時代でした。当時は大学の数も少なかつたせいもあり、学生に対する周囲の眼はあたたかく、学士のタマゴとして、至極好意的なものでした。同様に学校も又現在と違つて学生を大様にあつかってくれ、まさに青春を思う存分謳歌できた時代でした。例えば「予科では一応の勉強が必要でしたが、学部に進むと授業の出席もやかましくなく、セミと教練の単位取得に気をつかうくらいで年一回の試験ですら虎ノ巻の一晩すけて見事にかわしたものでした。そんな事で仲間には教授の顔も知らずに卒業したという豪傑もおりました。

今の学生諸君にはとても信じられない程のおおらかな良き時代であったのです。

独特の気合「タイシュー」。まさに電光石火、何技で投げられたのか分らない程であります。対戦技としても繩のごとくつてしまふようではなく、又こちらが押え込まれると軽い体重によって要所を極められているから柔道きようがない。寝ても立度の原理を示した名人技であります。

白髪になられた晩年、純白の柔道着に真紅の帯の姿で演じられた五の形は受けの白井八段との呼吸もピッタリで、その気品に満ちた流れるような体さばきは見るものを見なせたものです。まさに一幅の絵であります。

当時の講道館には小粒ながら得意技ではそれぞれ一家をなした年長級の先生方が數多くおられた。「方徳三宝」曾根幸三先生の様に大樹に向つて当頃柔道をしておるようで、ぶつかっては、はじき飛ばされ、ぶつかる前にねじり倒されると言う怪力の先生方もおられたものです。この様に個性あふれる特技をもされた先生方に、柔道をつけて貰うことは樂しみでもあると同時に自分の未熟さをいやといつ程感じさせられ情けなくなつたものでした。そんな大先生がお揃いの講道館の恒例の寒稽古、暑中稽古は庄巻で柔道を見学に来る人で二階の観覧席が大そう賑わつたものです。

昭和十一年、私の大手予科入学当時は、学部に五段が六七年、四段は予科を含めて十人近くおつて、逸材と層の厚さないで肩の小柄な方で別々でした。三船先生は柔道家らしくないで、組み手の妙等のすばらしさが目のあたりに蘇つてきます。こちらが投げたと思った瞬間、猫の如く空中で身を翻して反対にこちらの崩れを利用しての速攻が飛んでくる。先生

合を行つてその腕を競い合つたものです。

その中で、印象深いのは、私が予科入学早々の六月頃だったと思いますが、まだ三段（春の紅白試合に九人抜きの抜群昇段直後）なのに、一年先輩の宮崎四段（長野県柔道連盟会長、佐藤四段（戦死）と共に明大対全警視庁の対抗試合に予科から選ばれた時のことです。

晴れがましさと、気おくれの入り交じった複雑な気持ちで明大道場近くの朝風旅館の合宿に入りました。その合宿練習のすさまじかっことは一言でいい現せません。野武士のよう面構えの猛者ばかりがみんな眼をむき出しての大格闘で、その喧嘩でもしているような威圧感に体がしびれたものです。昔の学部の道場は、本館の地下室で名門の割には粗末で小さな道場だったので、勢い余って羽目板にまとも頭をぶつけ脳震盪を起こす者、寝技をしている上に巨漢がつっこんできて呼吸困難になる者等々、兎も角、合宿目的が全警視庁の剛力、荒武者どもが相手ということで気迫や暴れ負けをしないことに重点がおかれたすさまじいばかりの荒稽古でした。

それでも、激しい練習から解放されて合宿に戻り浴衣に着替えるところがあの恐ろしい上級生かと疑う程みんな陽気で無邪気な人達ばかりでした。馬鹿棒のような大きさのオヒツを囲んで、それは腰やかで柔らかいものでした。山盛りの丼茶碗数杯で腹ごしらえが終ると、あぐらあり、手枕で寝そべる者ありと夫々がリラックスした格好で大きな灰皿を中心輪をつくり、昨夜はもてたもてないの、あの店の

なさい。それでいい」とさりげない注意を預き、肩をほんと叩かれました。誠につぼを心得た励ましでした。そのお陰で勝負は引き分けでしたが、若輩としては五段相手に押しし氣味に戦うことが出来、満足でした。それが励みと自信につながり、その年の秋には紅白試合でまた八人抜きの抜群をやり即日四段に昇段（一年半後には五段に推されました）。

話を戻して警視庁との試合全体の成績は、双方二勝一負十分け、勝負なしの結果でしたが、当時の新聞には、明大一校で強豪揃いの全警視庁を相手にして堂々と戦い五分の星を挙げたことに対し、「さすが明治」とその伝統を讃嘆する記事に豈づいたる誇りをもたらしたものでした。中でも貴重な勝ち星を挙げた姿五段（十八歳にして五段に昇段）、この記録は講道館未曾有のものと思うの、大内刈、内股、一本背負、足払と多彩な技を織り込んでの連携の妙とその切れ味は、学生離れしている。と書かれた一節が今でも鮮明に私の胸に浮かびます。

その後の姿君は、全日本選手権、東西学生対抗、全日本学生対全滿州、等で華々しい戦績を残して、今春まで十九段に昇段しましたが、当時を知る者にとっては寧ろ遅きに失した感がする程、若き日の活躍は、満天下を沸かせたものでした。そんな彼もそろそろ古稀を迎える年配かと思いつますが、なお矍鑠として柔道を教える後輩の指導に当つておられるこの柔道に対する情熱と精進には畏敬の念を禁じ得ません。

後輩諸君はこの姿範を頂点とした篠巻監督、上村助監督、という超一流の指導陣から柔道の技量は勿論、その総てを学

酒がうまいの、サービスがどうのと誠に他愛のない雑談に花を咲かせているうちにそこではということになつて気の合つた連中がつれだち屋台の縄のれんを分けに行く程、可愛らしく自ら目がつれだち屋台の縄のれんを分けに行く子

ちゃん目がつれだち屋台の縄のれんを分けするその日の気分に応じて英気を養い出かけたものです。遊びも誠に開けて広げて個性味豊か、お互い他の財布をあてにしながらも至極鷹揚で豪放なものでした。門限などという堅苦しい規則はありませんでしたが、節度は保たれており早朝稽古時には一人も欠けるものはおらず、艶の良い顔が揃っていました。このしたかな体力には感心したものでした。田舎者の私は合宿でも夜の部でも諸先輩から色々と楽しい手ほどきを受けたことでした。

そんなしきときとぬくもりの調和が見事にこれた合宿も終わって、毎々試合当日となりました。選手は道場の神棚の前に二列に正座し、各人の前に折目正しく置かれた明治のマークと氏名入りの真新しい柔道着にお神酒を注ぎ、金員柏手を打つて必勝の祈願をし、どすのきいた声で明大柔道部歌をうなつて、出陣式とし、柔道着姿に、縁起を担いで紅白のはな緒のわら草履をはき、桜田門の警視庁特設道場に颶爽と乗り込んだのです。

会場には永岡十段を初めとする講道館のお偉方、警視庁の高官が綺麗星の如く並んでおり、新参の私はなんだんと興奮と緊張感におそれて、すっかり上気してしまいました。葉山監督が目ざとくそれを読みとられて、「小宮君、試合前からそんなに固くならないで自分の持つておるもの全部出し

ひとり、一日も早く明大柔道部黄金の伝統を君等の汗と執念で息吹かせてもらいたいものと、その研鑽を祈るや切なるものであります。

## む　す　び

全日本柔道選手権大会に、上村君が優勝した日、明大道場で開かれたささやかな祝宴の時だったと思います。大先輩である浜野九段（近畿柔道連盟会長、四十九年没）の祝辞は、「優勝旗とか賜杯とか、勝者にのみ与えられるものは、汗の匂いのする処が最も好きなものである。上村君は誰よりも汗を流したから居心地のよい上村君の處に賜杯はその居住を決めたのである。然し上村君よ、明大道場には幾多の先輩諸兄が滲ませた汗の匂いがしみついておること、君が汗を流し師範を始めとする良き指導者に恵まれたこと、君が汗を流し師範を数多くの同僚、後輩のいることを感謝しなくてはならない。

天狗は汗の匂いが大嫌いであることを銘記して、今後も心を打ち込んで精進に励めよ。先ずはお目出とう」大略そんな内容の挨拶であったが、咄々として嗜みしめるような語法、奥を求める迄の体験から滲み出したものであろうが誠に簡潔にして妙、潮騒のような拍手と歎声の送られた秀逸な挨拶であつたので、敢えて後輩諸君に付記してその奮起を期待する。（昭和十六年年度）

編集部注 小宮氏は昭和十三年外務省の武道親善使節としてヨーロッパを訪れている。

第一化成品㈱ 取締役社長

75

## 明大柔道部との出会い

宮 崎 博 通



原稿の依頼が突然に舞い込んで来た。多忙ではあるし文章は下手だし断わろうと思つたが、然し考えて見ると多事多難であった自分にも懷しい思い出がある。まるよ「諾」と返事をした以上なんとしても書かざるを得ない。編集者の意に添うかどうかベンをとることにした。まず私が何故明大に入ったか、この明大柔道部との出会いから始めないとヘンが前に進まない。

昭和十六年一月、自分は福岡県立旧豊津中学校の柔道部員であった。入学以来色々と武勇伝を重ねたがついに先生とトラブルを起こしてしまい、学校におられなくなってしまった。柔道の方でも少しは名前が知られたから転校の話もあつた。私の恩師である竹下永岡(永岡十段)の弟子だから。君はどちらにおより東京に出て柔道をやって見ないか、君だったら素質もあるしその気になれば充分やれると思うが、と言われ、私自身柔道は大好きだったのでこれ以上兄姉(父母!)に迷惑は掛けられないから柔道ができるならば何处にでも行こうと始めた。

地下の暗い道場であつた。後にこの道場で練習をすることにならうとは、因縁とは不思議なものである。當時明大柔道部には斎藤、久木、門屋、高橋、菅、古賀、石橋、吉村氏等がおられたのが記憶に残っている。錆々たる人達ばかりであった。随分鍛えられた。食糧事情が悪化はじめたこの頃、歯を喰いしばって練習をしたお陰で、昭和一七年一〇月の紅白試合に九人抜いて抜群により参段になつた。自分の前で石橋先輩が二三人抜いており、四段の部では倉原さんが抜群をしていた。自分のことが「柔道」の本に写真入りで載った時は感激が体内を走ったものだった。その後木村政彦さんの全盛時代で、自分はいつも講道館の片限でその練習振りを見守つていた。心の中ではそのうちあのようによくなつて見せるぞと思ひながら、熱心に見学をしていた。

天津に渡る

その頃の自分は今から考えると精神修養不足で、なんでも直線的に突走る短気者で、人々学校で友人のことで武勇伝を發揮、学校にも道場にもおられなくなつてしまつた。友人の話題で豊田の高砂、横山医院の院長が經營した道場に住み込み師範代としてひたすら柔道の修業をした。この横山院長は講道館創設者加納治五郎先生の四天王の一人であった富田常次郎先生と從兄弟にあたる人で、道場には富田先生の写真が掲げられていた。戦争は益々烈しさを加え社会も騒然としあじめ、このままでは自分自身が中途半端な人間になると悩んでいた時に、田淵先輩が軍隊へ入隊のため九州へ

昭和二年七月七日に勃発した支那事変は拡大の一途にあり戦時体制下の時代である。先生のお世話を昭和一六年一二月上京。ただ友人と別れが辛かつたことが思い出せる。その友も今はすでに亡く、実に淋しい限りだ。東京下谷の根津宮永町電停後に「有終館道場」を開いていた大久保辰一先生宅へ住み込むことになった。ここは、昼は接骨院、夜は道場である。柔道だけやればよいと思って上京した自分にとっては全くの外れ、朝早くから掃除をし整骨の手伝いと忙しいことであった。上京後すぐ東京市立二中に編入したが、仲々あこがれの講道館には行かせてくれない。だからといっておめおめと暇には帰れず、我慢をするより仕方がなかつたらしいようやく一七年の三月に憧れの講道館に入門させてもらえた。水道橋の旧講道館である。田舎出身の腰は強かつたが、講道館では足技で随分投げられた。それからというものは血の渙む練習に明け暮れた。その甲斐あって初段を飛び越えて段級を取得した。始めての黒帯の嬉しかったことは譬えようもなかつた。講道館での暑中稽古や寒稽古は常に皆勧賞をもらったものである。たゞひたすら練習をやつておつた。その頃に豊津中学校から明大を行つた田淵先輩に会う機会を得た。昭和二年二月に大東亜戦争はすでに勃発して、田淵さんがアメリカから帰つたばかりの時だつた。君は暑中稽古に出て来たのかと感心されながら、心苦しい次第であったが上京して來た経緯を話すと、大変困った顔をしていたのを思い出す。それから田淵先輩との東京での付合が始まり、明治大学の道場へも練習に連れていてもらった。

帰ることになり、お前も俺と一緒に帰れ、家の方には俺が謝つてやるからとのことで、針の筵を踏む思いであったが、謝つて半ばで失意の帰郷となつた。昭和一八年四月であった。しかし柔道だけはなんども名をなしてやろうと心中で燃えていた。帰郷後、柔道では全国中等学校大会で準優勝、福日大会(現在の金鶯旗大会)二連覇を取得了した豊國中学校へ編入し、神谷先生のもとで精進することになった。

昭和一八年度の明治神宮大会には、福岡県代表として、吉田、畠野、宮崎君とともに選抜されていたが、戦争激化のためこの大会は中止となる。本当に断腸の思いであった。戦況は益々日本に不利、学校出陣等が始ま柔道ではなくなつて来た。学校も繰りあげ卒業になつた。神谷先生も内地ではもう柔道は出来なくなつた。中国の天津に行かないか向うには津村君(倉原先輩と同級生金鶯旗大会二連勝時の先鋒で八島輝徳先生の娘婿である)が行つて活躍している。あちらではまだ柔道ができる。この言葉に魅了されて日本を発つたのが昭和一八年一二月の寒い日であった。身分は華北交通社員で天津鉄路学院入校。當時天津の日本本視界には立派な武道殿があり、授業が終ると自分と京都武道から來ていた河井君などが特別許可で毎日練習が出来た。ここで明大柔道部の大先輩である八島先生との出会いとなり、その後一方ならぬお世話になる。津村氏の後輩であり元気がよかつたからである。

ここではまだ対抗試合が盛んで、北京大会、濟南大会等々常に連戦連勝であった。(当時四段)優勝するたびに八島先

生が祝賀会をやつてくれ、飲む程に酔う程に校歌高吟し、柔道の話からはじまり天下国家を論じたことが今更のように懐かしい。現在、当華北交通柔道部員で「光明寮」に合宿していた連中とは毎年会合をして楽しんでおり、皆元気である。

然し当時の祝賀会費用は何処から出していたのか、未だに不明。

八島先生しかご存知ないことだろう。今は亡き先生のご冥福を祈るのみである。

このようになんてベンを走らせてはいる、昔日の思い出が次から次と走馬灯のようになんて浮かんで来る。

## 再び上京

昭和二〇年五月久留米一五一部隊に入隊、戦況は日本帝国崩壊の寸前であった。何をする事も出来ず、昭和二十年八月一日終戦になり、九月に復員。出征の時に恩師神谷耕一先生との約束で、生きて帰ったら俺の後を継げといわれていた氣持ちが敗戦と共に抜けてしまい、それと追打をかけるかのように占領軍の命令で柔剣弓道は学校教育から廃止の通達が発せられた。又、京都の武徳会は戦争に協力したということことで解散させられてしまった。但し警察道場や講道館では柔道ができるということではあった。

このまま学校に勤めていても柔道ができれば自分を満たすものはない。よし、もう一度上京して講道館で修業のやり直しだ。それには昔懐しい明治大学に行こうと決意。昭和二二年明治大学に入学。しかしながら学校は戦争で損傷ができないためレスリング部に入部した。昭和二三年全日本レスリング選手権大会でウェルター級に出場、早大OBの風間氏と優勝戦を戦い負けた。当時の風間氏といえはレスリング界の第一人者であった。小生の負けた写真がニュースに出た



昭和24年8月広島にて(戦後第1回の遠征) 後列左から：内尾金子、大野、曾根、木末、金谷、宮崎、堀口、1人おいて隠居、古賀、監督、神田、川口先輩、前列：伊藤

ことを知り、全く汗顏のいたりであった。たまたまレスリング部の部室で古賀先輩（現テレビ西日本副社長）に声をかけられた。小学生を覚えていてくれたのである。実に懐しかった。先輩も復員していたのである。その頃小学生は葛飾の堀切菖蒲園にあった「明大白雲寮」に起居していた。古賀先輩も後から入寮してこられた。レスリングはやっていたがどうにも好きになれず、この期間も古賀先輩には大変お世話をなつたものである。レスリングの練習が終ると講道館へ、その頃は醍醐、大沢氏等が元気であった。又寮に帰つてからも堀切の町道場に通つた。何しろ食べる物が無かつた時代で意欲はあるても体の方はどうにもつて来ない。

明大柔道俱楽部

そのような状況の中で昭和二三年一〇月頃と記憶しているが、八島、小田、鶴目自先生、古賀愛人先輩等が中心となつて校舎の中庭にあつた食堂の二階で明大柔道俱楽部の結成式を行なわれた。天津以来不通であった八島先生との時に再会したのである。君は明治に来ていたのかーと大変喜んでくれた時の一顔が思い浮んでくる。當時古賀先輩が現役の代表として諸先輩との接觸に当つてい、生徒は腰巾着の存在であった。当日出席されて記憶に残っている方は、八島、小田、鶴目、姿、斎藤、久米先生等と現役では古賀、山崎、金谷、堀口、伊藤、金子、曾根、小野寺、神田、木末、大野、門屋等の懐かしい顔ぶれである。特に印象づけられたのは、今は亡き久米先輩が柔道部歌「聞いて見たかよ! 明大の柔道

よいよい」と大音声に歌われたのを思い出す。

その後久米先輩は「白雲寮」の管理者となり、我々と生活を共にすることとなつた。柔道も強いが喧嘩も強かつた渝藤、久米先生の面影を偲ぶ時、誠に淋しい限りだ。

それまでと異なり柔道俱楽部発足後は地下の道場は活気に満ち溢れていた。食糧事情が最悪の時代「武士は食わねど高揚子」こんな気持ちを皆が持つてゐたと思う。練習が終る頃になると八島先生が来られて銀めしを乞ひ走してくれたり、一杯飲ませてくれたり、本当に嬉しい思い出だ。姿先生が技術指導にあたられ、柔道俱楽部は充実の一途を辿ることになつた。

## 忘れ得ぬ人々

数えきれないエピソードが泉の如く湧いてくる。GHQの初代スポーツ局長に古賀先輩を先頭に各大学の代表が、柔道は武道ではなくスポーツであると面会を求めて行ったこともある。自分等が卒業の前年、昭和二四年に八島、小田、鶴目先生を始め、各先輩の好意で、君等は余りにも恵まれなかつたので何か思い出に残るように、戦後第一回目の遠征を計画してくれた。初代の監督は古賀愛人先輩である。広島、九州、久留米と転戦。広島では山脇先輩宅へ宿泊。郊外の家であったが原爆のため家がヒビ割れていたのを思い出す。誠に懐い思い出である。九州では繩田喜美雄、田中久雄先生、久留米では石橋、吉村両先輩等、本当に世話をしなつた。繩田、田中両先生もすでに故人となられ、歳月の流

れの早さに驚くのみ。又隠居、曾根、末木君達も今はもう幽明世界を異にしてしまった。唯々冥福を祈り合掌するのみである。

昭和二六年学生柔道が復活、第回は金子、次は曾根、末木、石橋、神永等々常に明大柔道部から選手権を出している。確りとした基礎を先輩達が築いていたからである。小生専門部卒業と共に政経学部に進んだが、一度故郷に帰ることにした。帰つたら家庭的事情もあり、東京へは行かないでくれと妹から泣いて口説かれた。あまりにも廻り道をした小生のこと、安心が出来なかつたのである。これ以上兄姉に甘えてはならんと再上京を断念したのである。

第一回優勝した金子君が小生宅へ寄り優勝のトロフィーを前にして大いに歓喜するものだった。これは耐え難きに耐え忍び難きを忍んで築き上げた明大柔道部の金子塔である。現在の諸君達は物質的にも環境的にも指導者にも姿师范を始め篠巻、上村両監督と名師範名監督に恵れて、小生等の時代から考えると天地の差の好条件にある、どうか確りと性根を据えて期待に応えてもらいたい。

### 勝つこそ真価

己れに「勝つ」とよくいわれるが、いうは易く行は難しだ。然し勝負の世界は勝つこそ真価があるのである。青春は二度と訪れてはこないといふことを明記し、行住坐臥柔道の道に精神し汗を流してもらいたい。「芸に秀でた者は社会人となつても、一かどの旗頭にはなれるものだ。大いに

もう選手生活は諦めざるを得なかつた。

これからは耐え難きに耐え忍び難きを忍んで築き上げた明大柔道部の金子塔である。現在は迎えることになった。役所も五七年に退職して現在は北九州市中小企業育成公社に勤務しながら、市が昭和五年に戸畠区に建設してくれた武道場で、月水金と週三回未だに柔道着をつけた青少年の指導をしている。私にとってこの道友会の三五年間も又、苦難の思い出に溢れている。現在は北九州柔道会副会長、戸畠区柔道協会長等責任を負わされ若き日々と比較すれば人間も大分丸くなつたよう自分では防止し専念しよう決心して早いもので、来年まで丁度三年五周年を迎えることになった。役所も五七年に退職して現在は北九州市中小企業育成公社に勤務しながら、市が昭和五年に戸畠区に建設してくれた武道場で、月水金と週三回未だに柔道着をつけた青少年の指導をしている。私は今後もこの青少年達と共に二二世紀に向つて力強く歩みを進むことを決意する。

### さきに残る人

さきに残ることであろう。明大柔道部の益々の発展と活躍とを北九州の一隈より祈り続けていることを記して終りとする。

(附)北九州市中小企業育成公社  
専務理事  
(二十四年度)

### 心に残る人

早いもので、末木君が亡くなつてから、十一年の歳月が流れられた。

人生八十年といわれる時代、まだこれからという四十三歳の若さだったのに、死に急ぐかのように、突然逝つてしまつた。



若き日の末木茂氏前列左、五島、滝本、小林、本間(29年)

た。まことに惜しい。

彼は一石で打ち固めたよつた頑丈な体格をしていて、殺しても死ぬような人間ではなかつた。それでも、やはり病には勝てなかつた。いすれにしても、もつともと長く生きてい欲しく人間だった。残念でたまらない。

末木君は、大学はぼくの一年下だが、卒業は二年遅れである。これは、工学部から政経学部に移り、三年を二回やつたからである。ついでに言うと一年も二回やつっている。彼は最初明治大学専門部工学科に入ったが、二年に進級する時、学制改革があり、新制大学一年に編入されたので、一年を二回やる羽目になり、結局、六年かかって大学を卒業したことになつた。

近所の人たちは、四年たつても、五年過ぎても、大学を通う末木君の人、出来の悪い人間と見ていた。決して、頭が悪くて、長くかかったわけではなくのだが、事情を知らない、近所の人たちは、そうは見ず、彼は随分、肩身の狭い思いをしたものだ。訳を説明すると、言い訳に取られた。

東京に自宅があつながら、目黒の合宿所に入つたのも、こうした近所の人たちの、白い眼から逃がれたい気持ちがあつたのかもしれない。

しかし末木君は、大学生活最後の年、それまでの近所の不評判を、一挙につくづくえす格闘をやつておいたのである。柔道では、日本学生柔道選手権大会で優勝して、学生日本一になり、就職の方は、一流企業である富士製鉄(現新日本製鉄)の入社試験に合格したのだつた。

これで、近所の人たちの、末木君を見る眼が、掌をかえすようにながらと変わった。末木君が急騰したのだ。末木君は、近所の人たちを見かえし、大いに酒飲を下けたのだった。このころの末木君は、信州松本に遊びに行き、一瞬惚れて、あとで結婚することになった松子さんと、熱烈な恋愛中だった。したがって、末木君にとってこの時期は、彼の短かい生涯の中で、最も華やかで得意の日々であったといえよう。

大学時代、ぼくは恭達、末木君の家は中野にあったから、帰りはいつも一諸だった。金があると、新宿で途中下車し、西口にあったマーケット街の安い飲み屋を、はしご酒をして歩いた。三十四、五年前のことである。学生が酒を飲んで、多めのハメをはずしても、世間は大目に見てくれた。よき時代だ。名物男だった末木君は痛快な隠れの話が、数限りなくあるが、彼の名譽を毀損しうるだから、それらの逸話は、ノドから手が出るようだが、遠慮したい。

末木君は、大学を出ると、富士製鉄に入り、二年ほど室蘭勤めをした後、広畑にやって来た、私とこどもまた一緒にになった。友情の復活である。二人は、学生時代に戻ってよく遊び、よく飲んだ。広畑時代の逸話も、枚挙にいとまがないほどだ。このように、末木君とは、大学・会社時代を通じて、彼が亡くなってしまった。二十五年は、親交を重ねた。いわば「水魚の交わり」とも言える仲だった。それだけに、彼を惜しみ、惜しむ気持ちも、ひとと倍強いのである。

末木君を語る場合、どうしても触れなければならないことがある。彼が死ぬほど愛した松子夫人にかかるる話だ。見そめてから、結ばれるまでには、いかにも末木君らしい滑稽な話がいくつもあるが、これは末木君から再三聞かされたもので、「明柔」で発表しても差支えないと考えるから、述べてみたいと思う。

大学三年の時、末木君は日黒の合宿所に入った。その時には、松子夫人の心も、すっかり彼に傾き、ラブレターのやり取りが始まった時期であった。

末木君のある日、便所に入るうとすると、中から、手紙らしきものが読んでいる声がする。じつと聞き耳を立てると

どこで聞いたような文句がしきりに出てくる。そのうち、ハッと思ついた。それは自分が、松子夫人あてに出したラブレターの文面だった。便所には、しゃがむと、ちょうど眼と鼻の先がくる位置に、ラブレターが貼られてあつた。それを曾根君が読んでいたのだ。彼が自分のラブレターと一緒に付くまで、多少時間がかかったのは、後輩が書いた原稿を、書き写したものだったからである。

松子夫人は文才もあり、達筆である。末木君は、文章を書くのは大の苦手。それでも彼女に、「文政両道」の「文」の方

に淋しがり屋で、一人ではじつとしておれない性分だった。人を恋しがり、人の集まる所を好んだ。冗談とばか話とおふさげが好きで、彼のまわりには、いつも笑い声が絶えなかった。彼が顔を見せるだけで、なごやかな気分になつたものである。また、いたずら魔だった。

彼と同時期に、柔道部生活を送られたたちは、いずれも彼のいたずらの被害をこうむっておられるはずだ。もちろん、笑い話のタネになる程度の、たあいないものだが――。

末木君のいたずらの一例を、具体的に紹介する。

某日、小田明道先生から、末木君ほか数人、小料理屋の二階座敷でご馳走になった。ガソガソ食っている最中に、小田先生がガールフレンドが急に氣分が悪くなり、部屋の隅に横になつて休むという事態が生じた。

末木君は、彼女の豊かな胸のふくらみが気になつてしまつた。先生の持ちものに、いけない、と思うのだが、視線はない。先生の持ちものに、いけない、と思うのだが、視線はない。ついそこにいく。

小田先生の、「学生、もういいかい」で、お聞きになり、皆は先生を先頭に部屋を出て、階段をどやどや降りて行った。部屋には彼女と二人だけ。彼女のそばに寄り、手を伸ばして、

胸に一物ある末木君は、わざと皆に遅れた。部屋には彼女と二人だけ。彼女の先端を、軽くつかんだ。とたんに彼女は、「バ、末木さんが悪いことをする」と、大きな声を立てる。びっくり仰天した末木君は、部屋から飛んで出て階段の降り口の所に行って下を見た。階段の下には、小田先

の才能も十分あることを認めさせたかった。そこで後輩ながら、この道では一日の長がある。広島出身のK君に、ラブレターの原稿を書いてもらつたのであった。

末木君は、K君の原稿を便箋に書き写したが、自分の金針流の文字が、達筆な彼女の文字にくらべ、ひどく見劣りがしきが引ける。彼は、それを丸めて、後ろのタタミにポイと捨てた。そして書き直した。だが、やっぱり氣に入らない。丸めて捨て、また書いた。今度もダメ。その次もダメと、いつた具合で、末木君の身辺は丸めた。書きくずし、だらけとなり、足の踏み場もないくらい。

机にかじりつき、わき目も振らずに、ラブレターの書き直しに熱中していた末木君は、敵が足音をしのばせ、背後に近づき、長い棒を使つてその「書きくずし」をころがし手許に引き寄せ、持ち去つたのを少しも気がついていなかつた。

それ以来末木君は、ラブレター執筆中は、異常なまでに気配り、決して敵にスキを見せなかつた。どんなかすかな音でも聞き逃さなかつた。敵が近寄る気配が、少しでもあれば、身辺に散らばつている「書きくずし」を、すくなく拾つて、口の中にはうり込んだ。

曾根君の口を借りれば、末木君は、たつた二、三枚のラブレター一冊使つてしまつて、いた、という話である。

それ以來末木君は、ラブレター執筆中は、異常なまでに気配り、決して敵にスキを見せなかつた。どんなかすかな音でも聞き逃さなかつた。敵が近寄る気配が、少しでもあれば、身辺に散らばつている「書きくずし」を、すくなく拾つて、

わざとミミシミ音を立てる。末木君は、あわてて身辺の「書きくすし」を口に詰め込む。しばらくたって、末木君のラブレターの「書きくすし」がたまつた頃を見はからっては、またカタカタとやる。末木君はその都度「書きくすし」を、眼を白黒させながら口に運ぶのだった。

学生時代の末木君が、躍如として惚れる、ほほ笑ましい光景ではないか。

戦後、明治大学柔道発展のために、ど尽力になられた八島先生、鶴目先生、葉山先生、小田先生、久米先生と相ついで幽明界を異にされ久しい。そして発展の強力な推進力となって活躍した、隠居先輩、曾根君、末木君も相前後して、呼べど届かぬ遙かな遠い世界へ旅立ってしまった。再びこの世に帰り来る長い旅に。

戦後も次第に遠のいて行く——。ああ——。

△昭和二十七年度▽ダイエイ金属㈱

### 計報

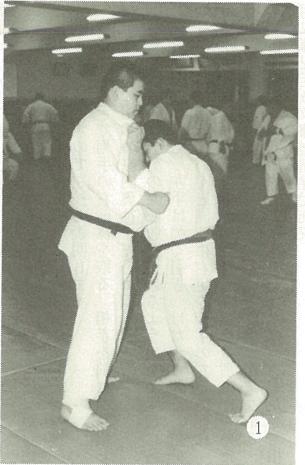
S 59 · 10 · 2	能美一夫氏(大14卒)御本人
11 · 3	永井佐治氏御母堂様
	享年 73 歳
	畠田道夫氏御母堂様
	享年 79 歳



得意技  
の解説

## 佐藤幸二の大内刈

私の大内刈は釣手で前襟を取つて引きつけながら釣り、前と同時に右足を一步踏み出し、相手の腰に入りますと、相手の上体は前に浮き上るよう崩れます。しかし相手はこの体の体勢では不安定なので、これを嫌つて体の重心を後方に移動しようとする。その時、相手に体をあびせながら釣手をちょっと力を抜いてやると相手は体を後方に引き下がろうとする、



1



2

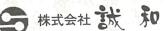


オーケニッシュジャパン株式会社

大國伸夫

ランドスケープの空間の創造に  
「わび・さび」の  
落着とダイナミックさを  
表現する

日本公園施設協会会員



代表取締役 高田誠之助  
常務取締役 渡辺昌照

〒104 東京都中央区八丁堀4-10-2  
八丁堀ビル Tel. 553-7201㈹  
福島県郡山市福岡町地内  
出張所 平原、流山、船橋

瞬間をとらえて技(大内刈)を掛けます。

ようするに私の大内刈は相手を前に強く引きつけながら釣り、相手の懷に入り相手を崩すことがポイントになります。

得意が左技ですので左技で説明します。

写真①、左手で相手の右前襟を取る。相手を前に引き出しながら右手に相手の左内奥袖を充分に取る。

写真②、右手は自分の左脇腹につけるようにして手前に強く充分に引きつける。左手は強く引きつけながら釣り、自分の耳の方向に持っていくと同時に右足を相手の左足内側に一歩踏み出し右足の位置の方向に注意し右足の位置は出来るだけ相手の左足と平行に置くようにし、丁度良い距離を取る。

重心は相手より下にもって右膝を充分に弾力をもたせて相手の胸と自分の胸を密着させる。

写真③、④ 相手は前襟に崩された体勢では、不安定なので後方に重心を移動しようとする瞬間、自分の左膝をのばし、左足親指に力を入れ、親指は脛を握りながら、相手の右足内側をめがけて半円を描くように腰で刈り倒し体をあびせてやる。

左膝を曲げたり、親指を脛から上げたりすると、刈る力が一点に集中出来なく技の切れが悪くなる。

写真⑤、大内刈を警戒され腹をつっぱられたり奥襟を取られたりして頑張られた場合。

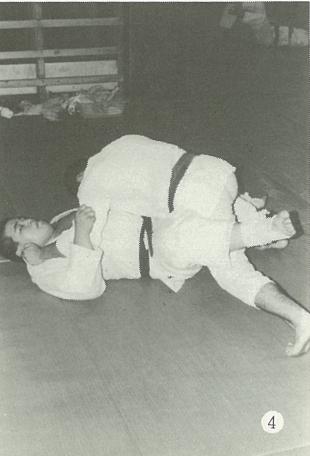
写真⑥、大内刈を思い切って技を掛けた後、相手の胸と自分の胸が密着出来なかつた時は自分の右足先を外側に向け、引き手は手首を返しながら自分の目の高さまで強く引き相手



6



5



4

を左斜前襟に崩し、左足と左肩を中心に掛け、左手は相手のあごを突き上昇るようにして、足腰のバネを利用していく。腰を右に強く廻しながら、自分の背中が脛につくように体全身の力を使って投げる、体落に連絡変化します。

以上説明致しました大内刈は、私の体に合った技になっています。その人によって身長、体力、敏し、よう性等が違いますので飽くまで参考にして、少しでも取り入れていただければ幸いと思います。

受け 取り 熊谷好昭二段

宮城県警△三八年度▽

## 広告総合代理店

新聞、雑誌、テレビ、ラジオ広告取扱い

C M、デザイン製作、アイディア商品

各種ノベルティ開発販売、市場調査、

コンサルティング業務

## 若山石油(株)

代表取締役社長

藤井洋二

(32年度卒)

〒746 山口県新南陽市富田4142番地  
TEL 0834-62-3176

## 雄和企画株式会社

代表取締役 田中章雄

東京都港区東新橋 1-2-11 三陸ビル

電話(03)572-2737代

# 広告

## 後輩に一層の支援を!! 明柔会費納入のお願い



年間 12,000 円

### 振り込み先

#### 関東地区会員

東海銀行東京営業部  
店番号 620 普預 432 326  
明柔会関東支部 入江秀明

#### 関東地区以外の会員

三菱銀行鉄鋼ビル支店  
店番号 004 普預 4216342  
明柔会 吉井敬吉

### 住 所 変 更

卒年	氏 名	住 所
50	丸 谷 武 久	〒 671-11 兵庫県姫路市大津区大津町大津 AP74-20
30	松 岡 篤	〒 239 神奈川県横須賀市馬堀海岸 4 丁目 1 番地 5 - 103
10	松 田 滋 夫	〒 157 東京都世田谷区成城 5 - 9 - 18
54	谷 口 淳	〒 467 愛知県名古屋市南区笠寺町姥子山 16 番地 TEL 052 - 811 - 2335 (河原道場)
56	山 口 章 弘	
50	田 中 弘 一	〒 467 愛知県名古屋市天白区土原 2 丁目 432 旭化成工業㈱一ツ山寮 24 号室 TEL 052 - 802 - 4809
57	吉 田 尚 生	22 rue Patron Ravello, 83980 LE LAVANDON Restaurant "LE GRILL"
42	大 森 昇	〒 421-01 静岡県静岡市東新田 4 丁目 17 番 1 号 スイートジェントリー 3 の F TEL 0542 - 57 - 1640 0542 - 83 - 8052 (会)
54	松 村 孝 明 (旧姓 下瀬)	〒 758 山口県萩市大字椿東 385 - 8 TEL 08382 - 2 - 5840
30	小 野 実	〒 193 八王子市散田町 3 - 12 - 7
35	野 口 征 彦	〒 350 川越市大塚新町 217 - 11
18	稻 富 弘	〒 666-01 兵庫県川西町小戸 1 - 18
34	佐久間 豪	〒 276 八千代市村上 1113 - 1 - 1 - 1 - 205
34	川 島 功	〒 220-01 神奈川県津久井郡城山町若葉台 3 - 3 - 2
44	小 谷 利 夫	〒 千葉県□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ TEL 0472 - 32 - 2071
18	三 船 芳 郎	〒 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□ TEL 044 - 266 - 0261 (会)
26	金 子 泰 典	〒 700 岡山県岡山市上中野 1 - 3 - 28 TEL 0862 - 79 - 1255 (会)
14	荒 川 廣 司	〒 329-02 板木県小山市下生井 1870
29	山 尾 英 三	〒 739-06 広島県大竹市西榮 2 丁目 10 - 15
47	岩 崎 治 泰	〒 271 千葉県松戸市稔台 550 - 18
48	薦 田 茂 久	〒 354 埼玉県入間郡大井町大字鶴ヶ丘 38 旭化成社宅 6 - 302
34	金 丸 国 一	TEL 0492 - 66 - 1280 03 - 814 - 6311 (チッソ旭)
		〒 134 東京都江戸川区清新町 1 丁目 4 - 2 - 208 TEL 03 - 675 - 5202 (会)

# 来年もよろしく

事務局の会計報告でわかる様に、最近除々に会費の集り具合がよくなっている。

O.B会費は、部の基本的な財源なのだが、これは本当に心強いことだ。まだまだ「明治は遠くにならじー」である。

先日、マネージャーのノートをぞくと、岩崎先輩・ハンバーガー・神田先生(じやがいも)・松岡父・牛肉・サンビン会・焼肉屋御招待等と書いてあった。先輩方からのさし入れや招待のメモである。肉といえば中島君や大村君もよく商売ものによくとどけてくれる。ありがたいことである。

関西合宿によく顔を出し気をつかつてくれる徳山氏・御無沙汰の詫びといつてアメリカから金一封を送つてくれた藤原氏、この他名前は省かせて頂くが、今年も多くの先輩方の支援が報告されている。

又、年末にあたって、日頃お世話になっている、O.B以外の皆様にも御礼をいわなければならない。例えば、明大柔道部が氣に入つたというだけで、材料持込みで合宿所の修理をして下れたり、餅つきをしてはましてくれたり等々、いつも何かと学生を可愛がつてくれる目黒の吉野さん。その昔、引っ越しを手伝つたのが縁で未だに学生の協力をしてくださる歯科医の中上先生(目黒)。壳り上げに生の協力をしていないのに、事あるごとに飲み物をとどけて応援してくれる駿河台の酒店の横山さん。本年はどうもありがとうございました。又、来年もよろしくお願いする次第です。

さて、諸君! 来年こそ、はげましてくれる皆様から「優勝おめでとう」の言葉を頂きましょう。



## 編集後記

つい、この間、幹事会で会報再刊の討議がなされたと思つていたのですが、早いものであれから足かけ三年、今回の84



し号は、もう五号目です。

先ずは順調に運んでおり御同慶の至りです。当初、大いに懸念された広告収入による独立採算運営も、ありがたいことに、正に、

案するより生むがやすしで再刊一号から順調に黒字経営を続けています。

母校柔道部に寄せるO.B諸兄の熱い思いによってこの事業が支えられている事を思う時より一層期待に添える様、学生同様大いに頑張るつもりです。

さて、今号に頑張っているO.B諸氏を写真で紹介するページを設けました。電話で登場

依頼をした為か編集部の意が今一つ通じなか

ったらしい。我々としては、生活感あふれるスナップがほしかったのですが(撮影技術の問題もありましようが)送られて来たのは生真面目なものばかりでした。しかし、御覽になつて、きっと若き日の彼(今、年老いてしまつたという意味ではありません)を懐かしく思い出された事でしょう。このページはしばらく続けることになつています。こちらからもお願いしますが、白鷗、他鷗も歓迎しま

ります。当時の写真を生徒時代のものを一枚つけて送つて下さい。コメントは

写真説明を少しふくらませた程度でよろしいです。

尚この件に限らず、原稿依頼の際も写真の添付をお願いしていますが、すでに手許にある記念写真等は別にして、あらためて会報のためにとられる時は、是非「白黒フィルム」でお願いします。順調のカラー写真の仕上りが一番得意といつうことです。お書きおき下さい。

雄先生に原稿をお願いしましたところ、快く一文を寄せて頂きました。先生は柔道に縁のある方ではありませんが、関係者君が曰頃

りました。文中で「スポーツはあまり知らない」といつておられます、その造詣の深さには定評のある方であります。

ちなみに、三十年代前半、野球部のエースとして活躍した池田英俊氏は先生の実弟です。又、年末がやって来ました。どうか良いお年を。

編集部 渡辺欣嗣、神永昭夫、小林敏郎、代田正俊、吉井敬吉、小野瀬雅幸、入江

秀明、河田恵吾。

## 明柔

年二回発行 (八十四年)

昭和五十九年十二月十九日 発行

編集部 神田和夫  
発行人 神田和夫

明治大学体育会柔道部  
明柔会

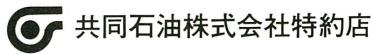
東京都千代田区神田駿河台一

明治大学体育課内  
○三一九五一四四八九

印刷所 有限公司 渡辺欣勝堂  
東京都千代田区神田三崎町一

二二

営業所 ○三一二六二一四六  
三五



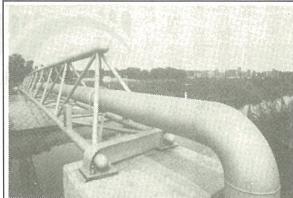
アスファルト・石油類総合販売

## 有限公司 男鹿興業社

代表取締役 国 安 キ ョ  
専務取締役 国 安 均



秋田県男鹿市船川港船川字化世沢178  
TEL 0185-23-3293(代)



### 確かな信頼のパイプ

都市ガス。

豊かな生活をみよい環境づくりにご奉仕して55年。京葉瓦斯は、工場とお客様を直結する1本のパイプに培われた「信頼」を大切に今日もまた確かな技術と豊富な経験で、より多くのお客さまにより多くの都市ガスを安全にお届けします。

◎京葉瓦斯株式会社

取締役社長 菊池 仁

電話 (371) 5111 代表 東京都新宿区西新宿7-13-9(ムトウビル)  
新宿警察署そば

—— 商業手形割引専門商社 ——

東京都知事登録

## 杉原産業株式会社

取締役社長 杉 原 構

## 三進工業株式会社

取締役社長 三 船 芳 郎

工場製作品 各種塔槽類／各種圧力容器  
建設工事 (国内及び海外)  
プラント 石油、化学、製紙、製糖、製塩  
環境装置 都市地域冷暖房、清掃工場、  
汚水処理装置、排煙脱硫・  
脱硝装置  
鉄構 高層型煙突、導水用鋼管、鉄  
骨、構造、水門扉、大型貯槽  
産業機械 製氷機械、ブリス、クレーン、  
原子力機器、その他

ビル管理業

## 第一企業中央(株)

代表取締役社長

細川 隆夫  
(38年度卒)

〒141 東京都品川区中延5-7-8  
TEL 03-781-1218

本社工場=川崎市川崎区小町4番4号 〒210  
電話川崎(044) 266-0261(代表)  
建設機械=川崎市川崎区日ノ出1丁目10番1号〒210  
センター=電話川崎(044) 266-0273(代表)



**MEIJI UNV. JUDO CLUB  
PERIODICALS**